

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
物理学		作業療法科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	高野昭夫(実務経験者)
授業の概要				
物理学とはなにか解説した後、リハビリの分野で特に理解が必要となる「ちから」について講義8回進めていく。 後半は試験にむけて問題を解きながら理解度を確認していく 【実務経験】高校勤務				
授業終了時の到達目標				
「ちから」について理解する 「てこ」について理解する 物理分野の国家試験問題に対応できる				
回	テーマ	内容		
1	物理学で何を学ぶか	概論		
2	力の表し方、重力	スカラーとベクトル 力の単位、力の3要素		
3	力のつり合いと作用・反作用①	重力、重心、力のつり合い		
4	力のつり合いと作用・反作用②	つり合いの2力と作用・反作用		
5	いろいろな力、 $F=ma$ 、ベクトルの足し算	重力、張力、弾性力、垂直抗力、摩擦力、浮力、揚力、アルキメデスの原理		
6	力の合成・分解①	$F=ma$ を用いた運動計算の練習		
7	力の合成・分解②	力ベクトルの合成・分解と練習		
8	てこの種類と原理①	てこの原理と種類1		
9	てこの種類と原理②	てこの原理と種類2		
10	力のモーメント	力のモーメントの練習問題		
11	力のモーメントと関節運動①	人体の関節における第1のてこ		
12	力のモーメントと関節運動②	人体の関節における第2、第3のてこ		
13	重力加速度	重力加速度の練習問題		
14	問題演習①	国家試験問題		
15	問題演習②	国家試験問題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生物学		作業療法科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	永井 衛(実務経験有)
授業の概要				
生物学から生命現象を理解することは、生物界の一員である人間を理解する上で大変重要である。本講義では生物の最小単位である細胞から講義を進め、生体内の化学反応、分子遺伝学について講義した後、生物の各器官系について順に講義していく。【実務経験】高校勤務				
授業終了時の到達目標				
細胞の構造、働きを理解する。 分子遺伝学を理解する。 生物の各器官系の構造、働きを理解する。				
回	テーマ	内容		
1	生命体のつくりとはたらき	生物の進化、生物の共通性、顕微鏡の歴史		
2	顕微鏡と細胞	分解能、細胞の構造1		
3	細胞の化学成分	細胞の構造2、細胞の成分		
4	体内の化学反応	代謝、確認テスト、酵素		
5	光合成と呼吸	光合成と呼吸		
6	細胞の増殖	細胞分裂		
7	ATPの生合成のまとめ	確認テスト、染色体		
8	遺伝情報の担い手	遺伝学の歴史1		
9	DNA複製・タンパク質の合成	遺伝学の歴史2		
10	ヒトの遺伝・変異	ヒトの遺伝学		
11	遺伝のまとめ	確認テスト、ホメオスタシス		
12	個体の調整1	呼吸系、消化系		
13	個体の調整2	循環系、免疫系1		
14	個体の調整3	免疫系2、神経系		
15	個体の調整4	内分泌系		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「系統看護学講座 生物学」高畑 雅一 他 著 医学書院		期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
情報リテラシーⅠ(入門)		作業療法科/1年	2024/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	木下僚介(実務経験あり)
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・講義と演習を通じて、ネット社会で情報を安全に使いこなすための基礎知識を学ぶ。 ・Word・Excel・PowerPointの基礎的な知識・操作技術を学ぶ。 ・PC操作やタッチタイピングに慣れる。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
情報化社会におけるモラルや情報管理、リスク等について説明できる。 PCの基本的な操作技術を獲得する。 Wordの基本的操作を理解し、文章やレポートを作成できる。 Excelの基本的操作を理解し、表・グラフを作成できる。 PowerPointの基本操作を理解し、資料を作成できる。				
回	テーマ	内容		
1	情報リテラシー概論	情報リテラシーの基礎知識		
2	情報リテラシー概論	情報の取り扱いとリスク、Web上のコミュニケーション		
3	PCの基本操作	PC操作の基本、タイピング技術の向上に向けて		
4	Wordの活用	Wordの基本操作		
5	Excelの活用	Excelの基本操作		
6	レポート作成の基本	表紙、本文の作り方、引用文献の表記法		
7	レポート作成の基本	文献検索をしてみよう		
8	Power Pointの活用	Power Pointの基本操作		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
情報リテラシー入門編：FOM出版		確認テスト 課題・レポート	50.0% 50.0%	公欠以外の理由による 課題の提出期限延長は 認めない。 提出できなかった場合は、 その課題分の得点 は0点とする。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
情報リテラシーII (基礎)		作業療法科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須/選択	担当教員
90分	8回	1単位 (15時間)	必須	木下僚介 (実務経験あり)
授業の概要				
<p>情報リテラシーの必要性について再認識する。 プレゼンテーション発表までの過程を通して、様々なPC操作や資料・データの収集方法や活用方法を学んだり、他者と協力し意見交換・問題解決しながら課題に取り組む実践的な経験を積む。 【実務経験】 病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>情報リテラシーの必要性を理解し説明・実践できる。 Word、Excel、PowerPointの様々な活用方法を学び実践できる。 プレゼンテーションに必要な資料・データを適切に収集したり活用できる。 伝わりやすいプレゼンテーション方法を学ぶ。 他者と協力して課題に取り組み、プレゼンテーション発表ができる。</p>				
回	テーマ	内容		
1	情報リテラシー概論	情報リテラシーの必要性		
2	Wordの活用	演習課題		
3	Excelの活用	演習課題		
4	PowerPointの活用	演習課題		
5	プレゼンテーション	伝わりやすいスライド、発表とは		
6	プレゼンテーション	発表準備		
7	プレゼンテーション	発表準備		
8	プレゼンテーション発表	発表と振り返り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
情報リテラシー入門編：FOM出版		課題・レポート 確認テスト	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
統計学		作業療法科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	丁子雄希(実務経験有)
授業の概要				
<p>近年、サービスの質を評価する手法として統計学的側面からのアプローチがなされており、分析ソフトの発達などを背景として、その関心は高まりつつある。本講義においては、こうした流れと今後の方向性を踏まえた上で、統計学の基礎的知識の習得を目的とする。</p> <p>【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・統計学の必要性について説明できる。 ・取り扱うデータの尺度について理解できる。 ・正規分布について理解できる。 ・研究で用いる必要な統計手法を選択できる。 				
回	テーマ	内容		
1	統計の基礎			
2	尺度	名義・順序・間隔・比率尺度		
3	検定			
4	t検定	対応の有無		
5	Mann Whitney検定			
6	カイ2乗検定			
7	3群間の比較	分散分析とフリードマン検定		
8	相関と多重比較検定	相関分析とロジスティック回帰分析		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
すぐできる リハビリテーション統計(南江堂、2012)		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
スポーツ科学		作業療法科/1年	2024/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中川、白瀬(実務経験有)
授業の概要				
身体活動が心身の健康を維持・増進するために効果的であることの知識を身にうけ、実習を通して、自己の心身の状態と健康についての意識を高める。また、子ども、高齢者、障がい者など特性に配慮してスポーツを楽しむことを支援するための知識と技術を身につける。高齢者や障がい者がスポーツを安全に実践できるように運動の質や量を調整し、道具の工夫やルール及びe-スポーツについても学ぶ。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・自己の心身の状態を理解し、実践する運動の質や量を調整できる ・支援者として他者の運動に関わることができる ・障がい者がスポーツを楽しめる競技を知り、ルール等の工夫ができる ・他者と協業を図りながらグループ活動が行える 				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション・総論	講義の進め方及び運動の基礎について		
2	ルールと道具	風船バレーボールを例に		
3	運動の実際	風船バレーボールを通しての実践		
4	運動の実際	風船バレーボールを通しての実践		
5	ルールと道具	バドミントンを例に		
6	運動の実際	バドミントンを通しての実践		
7	運動の実際	バドミントンを通しての実践		
8	ルールと道具	ラダーゲッターを例に		
9	運動の実際	ラダーゲッターを通しての実践		
10	運動の実際	ラダーゲッターを通しての実践		
11	ルールと道具	ポッチャを例に		
12	障害者スポーツの実際	ポッチャのルールと実践		
13	障害者スポーツの実際	ポッチャを通して実践		
14	e-スポーツの実際	e-スポーツのルールと実践		
15	e-スポーツの実際	e-スポーツを通して介護予防を考える		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		実習・実技評価 レポート課題	50.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
食育学		作業療法科/1年	2024/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	鈴木敦史(実務経験者)
授業の概要				
<p>食育とはなにか解説し、食育の現状と課題について講義する。またライフスタイルごとの食育、日本と諸外国での食文化を比較しながら講義を進めていく。 栄養についても栄養素の種類とそれらが体に及ぼす影響について講義し、さらに基礎代謝量やエネルギー消費量についての講義、計算方法も解説していく。【実務経験】レストラン勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>食育の現状と課題について理解する。 日本と諸外国の食文化の違いを知る。 栄養素の種類とそれらの作用を理解する。 基礎代謝量とエネルギー消費量を算出できる。</p>				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	オリエンテーション エネルギーってなんだろう?カロリー、ワット、ジュールについて		
2	基礎代謝量	食事摂取エネルギー量		
3	ライフステージと食育、乳幼児と食育	乳幼児・児童期～青年期と食育、育会者と食育		
4	栄養素の種類と主な機能	摂取エネルギー量と消費エネルギー量の関係 六大栄養素		
5	調理実習①	清潔、まな板・包丁の使い方		
6	調理実習②	米飯とみそ汁		
7	調理実習③	サラダ		
8	調理実習④	チキン料理		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度・時期	授業形態
健康管理学		作業療法科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	加藤久(実務経験あり)
授業の概要				
ヒトは食物を摂取し体内に必要な物質(栄養)を摂り入れることで生命活動を維持している。食物に含まれる栄養素の特性、栄養素の消化吸収など基礎栄養学を理解した上で傷病者の栄養管理の基礎知識を習得する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・五大栄養素の働き、代謝、栄養素の消化吸収などの基礎栄養学、栄養生理学について理解する。 ・ライフステージの栄養学、特に高齢期の栄養評価の基本的な考え方を理解し、健康維持・増進のための栄養ケアマネジメントを実行できるようにする。 ・生活習慣病(糖尿病など)の基本的栄養管理を習得する。 				
回	テーマ	内容		
1	生化学・栄養学は面白い	なぜ生化学を学ぶのか、なぜ栄養学を学ぶのか リハビリテーションに活かす生化学・栄養学		
2	生化学・栄養学に必要な基礎化学	元素・元素・分子、化学結合 同化・異化		
3	五大栄養素、たんぱく質 1) たんぱく質とアミノ酸	蛋白質の分類・機能 アミノ酸の分類・機能		
4	五大栄養素、たんぱく質 2) 酵素・ホルモン	酵素の分類・作用機構 ホルモンの分類・作用機序		
5	五大栄養素、炭水化物 糖質の代謝	糖質の分類、TCAサイクル、糖新生		
6	五大栄養素、脂質 脂質の代謝	脂質の分類、脂肪酸の分類、 β 酸化		
7	五大栄養素、無機質	無機質の種類・機能		
8	五大栄養素、ビタミン	ビタミンの種類・機能 脂溶性ビタミン、水溶性ビタミン		
9	栄養生理学 消化と吸収	消化器官、消化過程、 栄養素の吸収過程		
10	運動と栄養	運動とたんぱく質代謝、運動と脂質代謝		
11	リハビリテーションと栄養	リハビリテーションと栄養の関連性 リハビリテーション栄養における多職種連携		
12	栄養評価 栄養と摂食嚥下	低栄養と過栄養、栄養アセスメント、 摂食嚥下のメカニズム		
13	主な病態の栄養管理	糖尿病の栄養管理 虚弱高齢者の栄養管理		
14	静脈・経腸栄養法	栄養ケアマネジメント 栄養療法の選択、経腸栄養法、静脈栄養法		
15	総まとめ	復習、基礎栄養学のまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
リハベーシック生化学・栄養学 第2版 内山靖・藤井浩美・立石雅子編 医歯薬出版株式会社		レポートなどの課題提出 期末試験	70.0% 80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
福祉住環境コーディネータ論		作業療法科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	梶 直美(実務経験有)
授業の概要				
福祉住環境コーディネーター3級試験に合格できる知識を身に着ける 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
福祉住環境コーディネーター3級試験に合格する				
回	テーマ	内 容		
1	総論	検定試験について 学習の進め方		
2	第1章第1節	一問一答 解説		
3	第1章第2節第3節	一問一答 解説		
4	第2章	一問一答 解説		
5	第2章	一問一答 解説		
6	第3章	一問一答 解説		
7	第3章	一問一答 解説		
8	第4章	一問一答 解説		
9	第4章	一問一答 解説		
10	第5章	一問一答 解説		
11	過去問	第45回 試験・解答解説		
12	過去問	第43回 試験・解答解説		
13	過去問	第42回 試験・解答解説		
14	予想問題	予想問題 試験・解答解説		
15	予想問題	予想問題 試験・解答解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・福祉住環境コーディネーター3級改訂6版テキスト ・要点まとめ+よく出る問題 成美堂出版 ・副教材:過去問		福祉住環境コーディネーター3級試験合格	100.0%	不合格の場合は、レポート課題

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
心理学		作業療法科/1年	2024. 前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	
90分	15回	1単位(30時間)	必須	深澤大地(実務経験者)
授業の概要				
心理学とはなにか。学問的に解説した後、学生に身近な心理的要素を例に出し、共にどんな心理が働いて見えていく。そして、自分について心理的分析してみ、自身の心理的特徴を理解し、恋愛場面や対人関係における心理を考えてみる。この講義の最後にはメンタルヘルスについて学び、後期の臨床心理学の深い学びに繋げていく。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
心理学という学問を理解する。 自己分析できる。 自己を理解し、他者との心理の違いを理解して日常生活場面での対人関係に生かせる。				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション			
2	心理学とは何か			
3	感じるころ			
4	見るころ			
5	学習について			
6	動機づけ			
7	考えるころ			
8	自己理解1	私とは?1		
9	自己理解2	私とは?2		
10	心理学からみた恋愛			
11	心理学からみた恋愛2			
12	対人魅力と対人関係			
13	メンタルヘルスについて1			
14	メンタルヘルスについて2			
15	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
障害福祉論		作業療法科/4年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	中村尚紀(実務経験あり)
授業の概要				
本講義では、障害者福祉全般についての理解を深め、ノーマライゼーションをはじめとする障害者福祉の理念、歴史、また制度などの幅広い知識の習得を図る。【実務経験：病院勤務】				
授業終了時の到達目標				
「障害」の概念を理解することができる。 自らの障害観を内省し、共生社会について考えることができる。				
回	テーマ	内容		
1	概念	障害者の定義		
2	理念と展開	障害者福祉とは		
3	障害者の生活	生活実態		
4	障害者福祉の歴史			
5	法体系			
6	障害者運動	歴史と意義		
7	障害者と教育			
8	障害者と就労	雇用実態		
9	自立支援法			
10	国際	障害者の国際動向		
11	事例検討			
12	福祉の動向	我が国の福祉の動向		
13	障害者の所得保障	障害者の経済状況		
14	事例検討	自身の障害者観について		
15	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
医学英語		作業療法科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	西潟 央(実務経験有)
授業の概要				
実習・臨床場面における記載内容等の理解を助けていくために、英語その他について学習する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 医療現場・リハビリテーション分野で使われている英語について理解できる 2. 身体所見や検査所見の英語・略語について理解できる 3. 英語で体の状態などを質問、返答できる英語会話が理解できる 4. 医学に関する英語の文章に慣れる				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	病院で使われている英語とは 今まで学習した英単語の復習 レポート課題		
2	病院にある英語	医療現場にある英語や英語表記を考えてみます		
3	身体各部の英語 1	身体各部の英語表現を演習します		
4	身体各部の英語 2	身体各部の英語表現を演習します		
5	身体各部の英語 3	復習と確認テスト		
6	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語 1	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語表現を演習します		
7	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語 2	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語表現を演習します		
8	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語 3	復習と確認テスト		
9	理学療法・作業療法・リハビリテーション現場での英語会話 1	理学療法・作業療法・リハビリテーション現場での英語会話を演習します		
10	理学療法・作業療法・リハビリテーション現場での英語会話 2	理学療法・作業療法・リハビリテーション現場での英語会話を演習します		
11	理学療法・作業療法・リハビリテーション現場での英語会話 3	復習と確認テスト		
12	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英文 1	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語の文章を頑張って読んでみます		
13	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英文 2	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語の文章を頑張って読んでみます		
14	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英文 3	確認テスト(辞書の持ち込み)		
15	まとめ	総復習をします。期末試験の出題について説明します。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		期末試験 確認テスト 課題レポート	50.0% 30.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コミュニケーション援助技術論		作業療法科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	竹中・白瀬・木下・梶・中川・竹内
授業の概要				
医療現場で学生として求められるコミュニケーション・スキルについて学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
専門職としてふさわしい態度をとることができるようになる。				
回	テーマ	内容		
1	コミュニケーションについて	なぜコミュニケーションを学ぶのか コミュニケーションについて考えてみる		
2	社会で働くために必要な力	接遇5原則(身だしなみ、挨拶、表情、話し方、態度)		
3	自分を知る	対人援助者として自己成長に必要な自身の課題を明確にする。		
4	相手を知る	「みる」「きく」「みとめる」について考えてみよう		
5	話す技術「話題と会話、質問」	人と話をする際に必要となる「話題提供」「質問の仕方」などについて考えてみよう		
6	電話・メール・手紙	電話のかけ方、メールの書き方、手紙の書き方について学ぶ		
7	ほうれんそう、クッション言葉	実習における指導者との円滑なコミュニケーションのために考えてみよう		
8	まとめ	お礼状フィードバック・コミュニケーションGN(体験学習)		
9	良好な関係作り(木下)	他学年との交流会		
10	言語化力を養う(木下)	言語化する技術、伝える技術		
11	実習生として介入する(白瀬)	自己紹介、インフォームドコンセント、車いす介助、面談		
12	梶			
13	中川			
14	多職種連携(誠摩堂)	連携に必要な「はなす力」「きく力」		
15	積極的なコミュニケーション(竹内)	コミュニケーションの大切さを再確認しよう		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅰ		作業療法科/1年	2024/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	杉本 はるか(実務経験有)
授業の概要				
<p>人の根本である骨の構造・関節の構造について取りあげる。 骨模型を用い、立体的に人体の構造を学ぶ。 解剖学Ⅱ(筋学)の起始・停止・作用の理解に必要な知識を習得する。 講義後半では人体で触診を行い、人体の基本的構造を理解する。 [実務経験] 病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 解剖学的用語を理解する 骨の各部位の名称と特徴について骨模型を用いて説明できる 骨の構造の特徴について説明できる 骨の微細構造と恒常性維持のための機能について説明できる 				
回	テーマ	講義・実技		日程
1	オリエンテーション・解剖学的用語	講義・演習		4/11③④
2	骨の名称、種類	講義・演習		4/15③④
3	骨学各論①鎖骨・肩甲骨	講義・演習		4/18③④
4	骨学各論②上腕骨	講義・演習		4/22③④
5	骨学各論③橈骨・尺骨	講義・演習		4/23②
6	骨学各論④手部	講義・演習		4/30②
7	上肢の関節と運動方向	講義・演習		5/13③④
8		講義・演習		
9	上肢の骨指標触診	実技		5/20③④
10		実技		
11	確認テスト①	口頭試問		5/27③④
12		口頭試問		
13	骨学各論⑤寛骨・骨盤	講義・演習		6/3③
14	骨学各論⑥大腿骨・膝蓋骨	講義・演習		
15	骨学各論⑦脛骨・腓骨	講義・演習		6/10③④
16	骨学各論⑧足部	講義・演習		
17	下肢の関節と運動方向	講義・演習		6/17③④
18	下肢の関節と運動方向	講義・演習		
21	下肢の骨指標触診	講義・演習		6/24③④
22	下肢の骨指標触診	講義・演習		
21	確認テスト②	口頭試問		7/1③④
22		口頭試問		
23	骨学各論⑨脊椎・胸骨・肋骨	講義・演習		7/8③④
24		講義・演習		
25	骨学各論⑩頭蓋骨	講義・演習		70.0%
26	骨学総論②骨の微細構造	講義・演習		
27	確認テスト③	口頭試問		10.0%
28		口頭試問		10.0%
29	骨学まとめ③	個人演習		確認テストでは口頭試問を行う。期末試験は筆記試験を行う。
30		個人演習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
野村 嶺 他『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版』医学書院		期末試験	70.0%	確認テストでは口頭試問を行う。期末試験は筆記試験を行う。
		確認テスト①	10.0%	
		確認テスト②	10.0%	
		確認テスト③	10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅱ(筋学)		作業療法科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	山本政孝(実務経験あり)
授業の概要				
模型触診、動画視聴、イラストを通じて、筋肉を理解する				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・人体を構成している筋名を列挙できる。 ・筋の起始・停止・支配神経が列挙できる。 ・筋の起始・停止や走行をイメージして、作用が理解できる。 				
回	テーマ	内 容		
1	概論	オリエンテーション		
2	筋とは	筋の構造について		
3	肩関節の筋肉	三角筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、肩甲下筋		
4	肩関節の筋肉	三角筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、肩甲下筋		
5	肩関節の筋肉	大円筋、広背筋、大胸筋、烏口腕筋		
6	肩関節の筋肉	大円筋、広背筋、大胸筋、烏口腕筋		
7	肩甲骨の筋肉	僧帽筋、肩甲挙筋、小菱形筋、大菱形筋、小胸筋、前鋸筋		
8	肩甲骨の筋肉	僧帽筋、肩甲挙筋、小菱形筋、大菱形筋、小胸筋、前鋸筋		
9	上腕の筋肉	上腕二頭筋、上腕筋、上腕三頭筋、肘筋、円回内筋、腕橈骨筋		
10	上腕の筋肉	上腕二頭筋、上腕筋、上腕三頭筋、肘筋、円回内筋、腕橈骨筋		
11	前腕～手指	橈骨手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋、浅指屈筋、深指屈筋 長母指屈筋、方形回内筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋 総指伸筋、小指伸筋、尺側手根伸筋		
12	前腕～手指	橈骨手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋、浅指屈筋、深指屈筋 長母指屈筋、方形回内筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋 総指伸筋、小指伸筋、尺側手根伸筋		
13	前腕～手指	回外筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、示指伸筋 短母指外転筋、短母指屈筋、母指対立筋、母指内転筋		
14	前腕～手指	回外筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、示指伸筋 短母指外転筋、短母指屈筋、母指対立筋、母指内転筋		
15	手指	短掌筋、小指外転筋、短小指屈筋、小指対立筋、中様筋 背側骨間筋、掌側骨間筋		

回	テーマ	内 容		
16	下肢の筋肉	縫工筋、大腿直筋、外側広筋、中間広筋、内側広筋、恥骨筋 長内転筋、短内転筋、大内転筋		
17	下肢の筋肉	縫工筋、大腿直筋、外側広筋、中間広筋、内側広筋、恥骨筋 長内転筋、短内転筋、大内転筋		
18	下肢の筋肉	薄筋、外閉鎖筋、大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋 前脛骨筋、長趾伸筋、第三腓骨筋、長母趾伸筋、長腓骨筋、短腓骨筋		
19	下肢の筋肉	薄筋、外閉鎖筋、大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋 前脛骨筋、長趾伸筋、第三腓骨筋、長母趾伸筋、長腓骨筋、短腓骨筋		
20	下肢の筋肉	腓腹筋、ヒラメ筋、足底筋、膝窩筋、長趾屈筋 長母指屈筋、後脛骨筋		
21	下腿の筋肉	腓腹筋、ヒラメ筋、足底筋、膝窩筋、長趾屈筋 長母指屈筋、後脛骨筋		
22	頭部の筋肉 体幹筋群	胸鎖乳突筋、前斜角筋、中斜角筋、後斜角筋 横隔膜、腹直筋、外腹斜筋、内腹斜筋、腹横筋、腰方形筋 腰部多裂筋		
23	頭部の筋肉 体幹筋群	胸鎖乳突筋、前斜角筋、中斜角筋、後斜角筋 横隔膜、腹直筋、外腹斜筋、腹横筋、腰方形筋、腰部多裂筋		
24	寛骨筋群	腸骨筋、大腰筋、大殿筋、中殿筋、小殿筋、大腿筋膜張筋 梨状筋、内閉鎖筋、上双子筋、下双子筋、大腿方形筋		
25	寛骨筋群	腸骨筋、大腰筋、大殿筋、中殿筋、小殿筋、大腿筋膜張筋 梨状筋、内閉鎖筋、上双子筋、下双子筋、大腿方形筋		
26	足の筋肉	母趾外転筋、短母趾屈筋、母趾内転筋、小趾外転筋、短小趾屈筋 小趾対立筋、短趾屈筋、足底方形筋、虫様筋、底椎骨間筋 短母趾伸筋、短趾伸筋		
27	足の筋肉	母趾外転筋、短母趾屈筋、母趾内転筋、小趾外転筋、短小趾屈筋 小趾対立筋、短趾屈筋、足底方形筋、虫様筋、底椎骨間筋 短母趾伸筋、短趾伸筋		
28	咀嚼筋	側頭筋、咬筋、外側翼突筋、内側翼突筋		
29	咀嚼筋	側頭筋、咬筋、外側翼突筋、内側翼突筋		
30	まとめ	復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プロメテウス解剖学コアアトラス 第3版 (電子版) 医学書院 標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5 版 医学書院		期末試験 イラスト課題 小テスト	70.0% 10.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅲ (内臓・脈管学)		作業療法科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	牛丸翔太 (実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士や作業療法士が対象とする内科疾患 (循環器、呼吸器、泌尿器、消化器、内分泌) の病態を理解するため、講義・演習を通して構造を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・循環器系 心臓と、動・静脈、下腿への血液供給を理解する ・呼吸器系 カム交換に関わる肺と、発生に関わる気管について理解する ・消化器系 舌、歯、食道、および消化下にかかわる構造体を理解する ・泌尿器系 腎臓および尿管に關わる構造体を理解する ・生殖器系 男性では精巣および睪管と附帯に關わる構造体を理解する ・内分泌系 女性では卵巣と子宮の生理期における変化を理解する ・内分泌系 各内分泌系の特徴を学び、分泌されるホルモンとその生理作用を理解する 				
回	テーマ	内 容		
1	総論	理学療法・作業療法との関連事項		
2	血管系	動脈と静脈、毛細血管、吻合と終動脈		
3	心臓	位置、区分、弁、心臓壁の構成、心膜		
4	リンパ系 (1)	毛細リンパ管、リンパ管、リンパ節		
5	鼻	外鼻と鼻腔、副鼻腔		
6	気管と気管支 肺	気管と気管支		
7	肺	肺		
8	胸膜と縦隔	胸膜と縦隔		
9	消化器系 (口腔)	口蓋、舌、歯、唾液腺		
10	食道、胃	食道、胃		
11	小腸、大腸	十二指腸、空腸、回腸、盲腸、結腸、直腸		
12	肝臓、胆嚢	肝臓、胆嚢		
13	泌尿器系	腎臓		
14	生殖器系	生殖器		
15	内分泌系	ホルモンと標的細胞、下垂体		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版 医学書院 病気がみえるvol.2 循環器 MEDIC MEDIA 病気がみえるvol.4 呼吸器 MEDIC MEDIA		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅳ (神経学)		作業療法科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	竹中誠 (実務経験有)
授業の概要				
中枢神経疾患の特徴を理解するために、それぞれの構造や働きを講義、演習を通して学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 中枢神経系の構造と働きについて概説できる。 2. 脳の構造と働きについて概説できる。 3. 大脳皮質、大脳辺縁系、脳幹、小脳それぞれの機能と構造について説明できる。				
回	テーマ	内 容		
1	神経系総論	神経系の区分		
2	神経系の構成	神経組織、中枢神経系の構成、末梢神経系の構成		
3	髄膜と脳室系	髄膜と脳室系の構成		
4	神経系の発生	脊髄、脳、末梢神経の発生		
5	脊髄	脊髄の外形と横断面		
6	脳幹	延髄		
7	脳幹	橋		
8	脳幹	中脳、網様体		
9	小脳	小脳の外形と区分		
10	小脳	小脳の入出力と機能		
11	大脳	間脳		
12	大脳	大脳半球		
13	大脳	大脳皮質と髄質		
14	大脳	大脳皮質の機能局在		
15	大脳	大脳基底核		

回	テ ー マ	内 容		
16	神経路	上行性神経路①		
17	神経路	上行性神経路②		
18	神経路	下行性神経路①		
19	神経路	下行性神経路②		
20	脊髄神経	頸神経		
21	脊髄神経	頸神経		
22	脊髄神経	腰神経		
23	脊髄神経	腰神経		
24	脊髄神経	仙骨神経		
25	脊髄神経	仙骨神経		
26	脳神経	嗅神経、視神経、動眼神経		
27	脳神経	滑車神経、三叉神経、外転神経		
28	脳神経	顔面神経、内耳神経、舌咽神経		
29	脳神経	迷走神経、副神経、舌下神経		
30	自律神経	交感神経系、副交感神経系		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版 医学書院 病気がみえるVol.7 脳・神経 第2版 MEDIC MEDIA		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生理学Ⅰ		作業療法科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	牛丸翔太(実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士や作業療法士が対象とする内科疾患(循環器、呼吸器)の病態を理解するため、講義・演習を通して機能を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・血液の機能を理解できる ・循環器系の機能を理解できる ・呼吸器系の機能を理解できる ・筋および神経の機能を理解できる 排泄の仕組みを理解できる 				
回	テーマ	内 容		
1	総論	恒常性、生物学との関連		
2	血液(1)	血液の組成と機能		
3	血液(2)	赤血球		
4	血液(3)	白血球、血小板		
5	血液(4)	血漿 血液型		
6	心臓と循環(1)	血液の循環		
7	心臓と循環(2)	心臓の興奮と刺激伝導系		
8	心臓と循環(3)	心電図		
9	心臓と循環(4)	血液の拍出と血圧		
10	心臓と循環(5)	心機能曲線		
11	筋肉(1)	筋の分類		
12	筋肉(2)	骨格筋		
13	筋肉(3)	心筋と平滑筋		
14	筋肉(4)	心筋		
15	神経(1)	神経の興奮伝導		

回	テ ー マ	内 容		
16	神経 (2)	末梢神経		
17	神経 (3)	自律神経		
18	神経 (4)	中枢神経系		
19	感覚 (1)	感覚とは		
20	感覚 (2)	体性感覚 内臓感覚 特殊感覚		
21	呼吸とガスの運搬 (1)	外呼吸とない呼吸		
22	呼吸とガスの運搬 (2)	呼吸運動 呼吸気量		
23	呼吸とガスの運搬 (3)	ガス交換とガスの運搬		
24	呼吸とガスの運搬 (4)	呼吸の調節		
25	呼吸とガスの運搬 (5)	病的呼吸		
26	尿の生成と排泄 (1)	腎臓の役割と構造		
27	尿の生成と排泄 (2)	尿の生成		
28	尿の生成と排泄 (3)	クリアランス		
29	尿の生成と排泄 (4)	排尿		
30	尿の生成と排泄 (5)	尿の性状と排尿異状		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	標準理学療法学・作業療法学 生理学第5版 医学書院	期末試験 小テスト	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生理学Ⅱ		作業療法科/1年	2024/後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	牛丸翔太 (実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士や作業療法士が対象とする内科疾患(泌尿器、消化器、内分泌)の病態を理解するため、講義・演習を通して機能を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・泌尿器の機能を理解できる ・酸塩基平衡を理解できる ・消化器系の機能を理解できる ・感覚器系の機能を理解できる 				
回	テーマ	内容		
1	概論	理学療法・作業療法との関連事項		
2	泌尿器(1)	腎臓の役割1		
3	泌尿器(2)	腎臓の役割2		
4	泌尿器(3)	腎臓の構造		
5	泌尿器(4)	尿の生成		
6	泌尿器(5)	クリアランス		
7	泌尿器(6)	排尿		
8	泌尿器(7)	尿の性状と排尿の異常		
9	酸塩基平衡(1)	血漿のpH調節		
10	酸塩基平衡(2)	アシドーシスとアルカローシス		
11	消化(1)	消化器の役割		
12	消化(2)	口腔内消化と嚥下		
13	消化(3)	食道における食物輸送		
14	消化(4)	胃の役割と消化		
15	消化(5)	十二指腸における消化		

回	テーマ	内 容		
16	消化（6）	空腸・回腸における消化と栄養素の吸収		
17	消化（7）	大腸の役割		
18	消化（8）	肝臓の役割1		
19	消化（9）	肝臓の役割2		
20	感覚（1）	感覚とは		
21	感覚（2）	体性感覚		
22	感覚（3）	内臓感覚		
23	感覚（4）	特殊感覚1		
24	感覚（5）	特殊感覚2		
25	感覚（6）	特殊感覚3		
26	内分泌（1）	内分泌機能とホルモン		
27	内分泌（2）	内分泌機能とホルモン		
28	内分泌（3）	各腺から分泌されるホルモンの作用1		
29	内分泌（4）	各腺から分泌されるホルモンの作用2		
30	内分泌（5）	各腺から分泌されるホルモンの作用3		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版	期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動学Ⅰ (総論・上肢)		作業療法科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	中川等史 (実務経験有)
授業の概要				
身体運動を理解するための基礎知識を学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・四肢と体幹の運動を理解するための基礎知識を学ぶ。 ・運動分析、動作分析を理解できる。 ・生活力学が理解できる。 				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション、総論			
2	上肢帯と肩関節での上肢の運動①	関節と靭帯		
3	上肢帯と肩関節での上肢の運動②	上肢帯と肩関節での上肢の動き		
4	上肢帯と肩関節での上肢の運動③	上肢帯の筋、肩関節の筋		
5	肘関節と前腕の運動①	関節と靭帯		
6	肘関節と前腕の運動②	肘関節における前腕の動き、肘関節の筋		
7	上肢帯と上肢の運動			
8	手関節と手の運動①	皮膚、骨、関節と靭帯		
9	手関節と手の運動②	腱鞘、指背腱膜、手関節と手の運動		
10	手関節と手の運動③	手のアーチ、手の把持動作パターン		
11	手関節と手の運動④	手の機能姿勢、手の変形		
12	顔面および頭部の運動			
13	体幹の運動①	頸椎の運動		
14	体幹の運動②	胸椎と胸郭の運動		
15	体幹の運動③	腰椎の運動		

回	テーマ	内 容		
16	下肢帯と股関節の運動①	関節と靭帯		
17	下肢帯と股関節の運動②	股関節の動き		
18	下肢帯と股関節の運動③	股関節の筋		
19	膝関節の運動			
20	足の関節と足の運動	アーチの構造と機能		
21	下肢帯と下肢の運動			
22	姿勢・動作①	重心、立位姿勢		
23	姿勢・動作②	立位姿勢の異常		
24	歩行と走行①	歩行周期、異常歩行		
25	歩行と走行②	運動力学的分析		
26	運動発達			
27	呼吸・エネルギー代謝			
28	運動学習			
29	バイオメカニクス①	運動学的分析、円運動、モーメント		
30	バイオメカニクス②	運動法則、身体とてこ、骨と関節の運動		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
基礎運動学(第6版) 中村隆一 医歯薬出版株式会社		期末試験 小テスト	80.0% 20.0%	合計が60%未満の場合は、再試験を実施します。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動学II		作業療法科/2年	2024/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	中川・藤原・竹内 (実務経験有)
授業の概要				
運動学で学んだ正常なヒトの身体運動の知識をもとに、主に骨・関節・運動器系の機能解剖を臨床に照らし合わせて理解する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
ヒトの運動・動作・活動の仕組みの理解と、観察や記録方法・プレゼンテーション技術などの基礎技術を身につける				
回	テーマ	内容		
1	骨性ランドマーク・肩甲骨上腕リズムの測定	触診・測定法、データ解析、文献検索の確認		
2	骨性ランドマーク・肩甲骨上腕リズム	自己で触診・測定とデータ収集		
3	動作分析①	ADL動作(食事、整容)、書字動作の運動学分析		
4	動作分析②	運動学分析から必要な筋収縮を分析		
5	肩甲骨上腕リズム結果発表	肩甲骨上腕リズムの測定についてプレゼンテーションする		
6	握力・ピンチ力測定について	実習の手順の確認		
7	握力・ピンチ力	肢位による握力やピンチ力の違いを測定し、データ収集		
8	握力・ピンチ力	データ解析		
9	各種道具とその把握・つまみの形態①	ものの違いでの把握形態を分析		
10	各種道具とその把握・つまみの形態②	ものの違いでの把握形態を分析		
11	握力・ピンチ力	プレゼンテーション		
12	立位姿勢の重心動揺と機能的リーチ検査①	手順の説明・重心動揺計の使い方や閉眼開眼での揺れの違いを知る。機能的リーチとの関連性を探る		
13	立位姿勢の重心動揺と機能的リーチ検査②	測定		
14	立位姿勢の重心動揺と機能的リーチ検査③	考察		
15	座位姿勢の姿勢パターン・姿勢分析	手順の説明		
16	座位姿勢の姿勢パターン・姿勢分析	測定と解析		
17	立位姿勢と機能的リーチ検査	発表		
18	立ち上がり動作	手順の説明		

19	立ち上がり動作	立ち上がりのデータ測定		
20	立ち上がり動作	解析・考察		
21	踏み台昇降	手順の説明		
22	踏み台昇降	踏み台昇降後の血圧等バイタルの測定		
23	立ち上がり動作	発表		
24	歩行分析	手順説明		
25	歩行分析	データ測定と解析		
26	歩行分析	結果の考察・発表用データの整理		
27	踏み台昇降	発表		
28	感覚、知覚について	手順の説明		
29	感覚、知覚について	測定・解析		
30	歩行分析	発表		
教科書・教材 基礎運動学 第6版（中村隆一）		評価基準 課題・レポート	評価率 100.0%	その他 実技は動きやすい服装、ケースを若用すること、 基礎運動学を持参すること。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間発達学		作業療法科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中川等史(実務経験有)
授業の概要				
人間の発達を多面的に捉え、近年の小児リハビリテーション領域の幅広い障害への対応が出来るように運動発達・社会性・情動・愛着の発達、嚥下機能や言語発達、更に家族関係の発達を学び、最近の多様なニーズに対応するために有用な知識を身に付ける。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
基礎的な発達概念を理解し、主な発達理論についての概略を述べることができる。 発達の障害の理解やその評価について理解できる 上肢機能やADLの発達の順序性について述べるができる				
回	テーマ	内容		
1	人間発達の基礎	発達概論や身体の発達・心理精神機能の発達を学ぶ		
2	胎児の発達	胎児の発達を神経系・臓器・感覚・運動などから見る。身体表彰機能・睡眠の発達を知り、胎児評価や早産児の特性についても知る		
3	運動の発達	粗大運動や微細運動・上肢機能の発達を知り、発達理論についても学ぶ。		
4	認知能力の発達	感覚・知覚・認知の発達を知る		
5	社会性の発達①	社会性の発達を学ぶ。新生児期～3歳まで		
6	社会性の発達②	4歳～青年期までの社会性の発達及び自閉症スペクトラム障害についても学ぶ		
7	情動・愛着の発達	情動の知覚・発達や愛着の発達について学ぶ		
8	言語の発達①	言語発達の過程を学ぶ		
9	言語の発達②	言語発達を支える環境要因について		
10	摂食嚥下の発達	摂食嚥下機能の基礎知識・摂食嚥下機能の発達を学ぶ		
11	遊び・生活能力の発達	遊びの発達を通して日常生活活動と手指の発達を学ぶ		
12	道徳性の発達	道徳の発達について学ぶ		
13	家族関係の発達	家族の構造などについて学ぶ		
14	発達の評価	運動・認知の評価について学ぶ		
15	発達の統合的理解	発達の各領域間の相互作用や発達の障害の理解などについて学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
浅野大樹人間発達学 医学書院		期末試験	100.0%	

作成者: 田近、園井、高木

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
病理学概論		作業療法科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	田近、田中、高木 (実務経験有)
授業の概要				
<p>全講義15回。 病理学では生体が機能低下に陥った時の反応を学ぶ科目である。したがって生理学を理解していることが前提となる。 病理学でも各器官ごとの病態を解説していく。【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
各器官ごとの病態を理解する。				
回	テーマ	内容		
1	総論①(先天異常、代謝障害)	病理学総論、先天異常、代謝障害		
2	総論②(進行性病変、循環障害)	進行性病変、循環障害		
3	総論③(炎症、腫瘍)	炎症、腫瘍		
4	総論④(免疫病理と感染症)	免疫病理と感染症		
5	循環障害	局所循環障害、全身性循環障害		
6	炎症	炎症細胞、炎症の分類		
7	免疫	免疫病理		
8	感染症	感染源、感染症の成立		
9	代謝障害	萎縮、蛋白変性、脂肪・糖原・色素変性		
10	老化、新生児、遺伝	老化と病気、正常生ま		
11	腫瘍	腫瘍の定義と分類、形態		
12	消化器、呼吸器	口腔・消化管、肝臓、脾臓		
13	造血器、腎臓	機能と形態		
14	内分泌、神経、運動器	機能と形態		
15	定期試験、まとめ	病理診断		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「カラーで学べる 病理学 第4版」渡辺照男 編 ヌーベルヒロカワ		期末試験	100.0%	

作成者: 深澤大地
 履修形態

科目名		学科/学年	年度/時期	
臨床心理学		作業療法科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須/選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	深澤大地(実務経験者)

授業の概要

臨床心理学とは何か解説した後、ライフサイクルに沿った心の発達過程、心理的問題について解説していく。
 講義後半ではカウンセリングについて講義し、カウンセリングの流れを解説していく。また事例を挙げても解説を加え、注意点も合わせて説明していく。
 【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

ライフサイクルに沿った心の発達過程、心理的問題について理解する。
 カウンセリングの流れを知る。

回	テーマ	内容
1	臨床心理学とは	臨床心理とは？臨床心理学総論
2	乳幼児のころ	乳幼児期
3	乳児期のころ	幼児期
4	乳児期のころの問題	幼児期の心理的問題
5	児童期のころ	児童期
6	思春期のころ	思春期①
7	思春期のころの問題	思春期②
8	青年期・成人期のころ	青年期、成人期
9	カウンセリング1	カウンセリングについて～導入～
10	カウンセリング2	カウンセリングについて～方法～
11	カウンセリング3	カウンセリングについて～解釈～
12	カウンセリング4	カウンセリングについて～解釈～
13	こどものカウンセリング	子どものカウンセリング
14	保護者支援	保護者支援
15	まとめ	復習とまとめ

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
配布資料	期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
整形外科学		作業療法科/2年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	浅野裕・他(実務経験あり)
授業の概要				
整形外科の病態と治療過程について理解を深めることを目的とする。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
整形疾患の病態と治療課程について理解する。				
回	テーマ	内 容		
1	軟部組織損傷、骨折、脱臼総論	骨と軟骨と関節について		
2	脊椎、脊髄損傷	脊髄損傷		
3	末梢神経損傷	神経断裂		
4	スポーツ障害と外傷	種々の疾患・病態・治療法など		
5	上肢・胸郭の外傷、骨盤・下肢の外傷	種々の疾患・病態・治療法など		
6	頸椎疾患・胸椎・腰痛疾患	種々の疾患・病態・治療法など		
7	慢性関節疾患	種々の疾患・病態・治療法など		
8	関節リウマチとその類縁疾患	寛解レベル		
9	肩・肘関節疾患	種々の疾患・病態・治療法など		
10	手関節・手指の疾患	種々の疾患・病態・治療法など		
11	股関節疾患	大腿骨骨折中心に		
12	膝関節疾患	変形性膝関節症を中心に		
13	足関節・足趾の疾患	種々の疾患・病態・治療法など		
14	骨軟部腫瘍、先天異常・系統疾患	癌		
15	まとめ1	整形疾患全般に関わるうえでのリスク		
16	まとめ2	整形疾患全般		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『標準整形外科学 第15版』松野丈夫 著 医学書院 『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎 分野 整形外科学第3版』立野勝彦 著 医学書院		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
内科学Ⅰ (総論)		作業療法科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位 (30時間)	必須	牛丸・山田・他 (実務経験有)
授業の概要				
<p>内科学診断のためのアプローチや治療法について学習する。また、療法士としての必要な内科学の基本的な知識を習得することを目標とする。 【実務経験】 病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>内科学に関する基本的知識・各病態の病態生理、治療のアプローチ等を習得する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ハイタルサインを正しく見ている 2. 患者さんの訴えおよび症状から内科疾患を探り定める 3. 内科学の学習目標を達成し、リハビリテーションの必要性を判断し、患者さんや家族の病状の理解ができる 4. 疾患を正確に理解し、公衆衛生学観点から注意を喚起するなどの臨床に繋がる 5. 内科学の基本的知識をもって患者さんの相談に応じる能力を身に付ける 				
回	テーマ	内 容		
1	内科学総論	リハビリテーションとの関係 診断と治療の実際		
2	症候学	症候とは何か 主要な症候を生じる病態と関連疾患		
3	循環器疾患 1	循環器系の解剖と生理		
4	循環器疾患 2	主要な症候		
5	循環器疾患 3	診断法 リハビリテーション		
6	疾患各論 1	高低血圧症、心疾患		
7	疾患各論 2	大動脈疾患、末梢血管疾患		
8	呼吸器疾患 1	解剖と生理		
9	呼吸器疾患 2	主要な症候と病態生理		
10	呼吸器疾患 3	臨床検査所見		
11	疾患各論 1	COPD、肺疾患 リハビリテーション		
12	疾患各論 2	呼吸不全、異常呼吸		
13	血液・造血器疾患	主要な症候と病態生理		
14	代謝性疾患	主要な症候と病態生理		
15	トピックス	妊娠と出産を考えるフォーラム		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 内科学 第4版 配布資料		中間試験 期末試験	50.0% 50.0%	

科目名		学科・学年	年度・時期	授業形態
内科学Ⅱ（各論）		作業療法科/2年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	中川・塚田（実務経験あり）
授業の概要				
内科学Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、循環器・呼吸器・消化器・血液・内分泌疾患の各論について理解を深める。療法士として必要な内科学の応用的な知識の習得を目標とする。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
内科学に関する基本的知識、各種疾病の病態概念、治療のアウトライン等を習得する。 1. バイタルサインを正しく測定できる。 2. 患者さんの訴えおよび症候から内科疾患を絞り込める。 3. 内科学の全領域を学習し、リハビリテーション治療を受ける患者さんの基礎疾患の病態を理解できる。 4. 感染症を理解して公衆衛生学観点から感染を予防するなど危機管理に努める。 5. 内科学の基本的知識をもって患者さんの微小な病態変化を迅速に察知し、最適な対応がとれる。				
回	テーマ	内 容		
1	消化器疾患1	消化器疾患 消化管の解剖と生理		
2	消化器疾患2	消化管疾患の症候とその病態生理、検査法		
3	消化器疾患3	消化管疾患各論		
4	肝胆膵疾患1	肝胆膵疾患 肝臓、胆道系、膵臓、腹膜の解剖と生理		
5	肝胆膵疾患2	肝胆膵疾患、腹膜疾患の検査・診断法と各論		
6	内分泌疾患1	内分泌疾患 総論、内分泌腺の総論、解剖と生理		
7	内分泌疾患2	内分泌検査法、内分泌疾患各論		
8	腎・泌尿器疾患1	腎・泌尿器疾患 腎臓の解剖と生理		
9	腎・泌尿器疾患2	腎疾患の症候と病態生理、検査法		
10	腎・泌尿器疾患3	腎・泌尿器疾患各論		
11	電解質異常	電解質代謝		
12	アレルギー疾患	免疫系の働き、アレルギー疾患の各論		
13	膠原病、リウマチ性疾患、免疫不全症	膠原病、リウマチ性疾患、免疫不全症の各論		
14	感染症1	感染症総論		
15	感染症2	感染症各論		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 内科学 第3版 配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
神経内科学Ⅰ(総論)		作業療法科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	竹中 誠(実務経験有)
授業の概要				
神経疾患による障害に対して理学療法や作業療法を行うためには、これらの疾患に関する十分な知識をもつこと、これら疾患の患者の中で多数を占める高齢者の精神身体面の特徴、ことに加齢に伴う内科疾患などの合併症について十分な知識が必要である。本科目では各論を学ぶ上で必要となる神経症候学についての基礎知識を習得することを目的とする。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
神経学的診断や症候について評価する上で必要となる知識を習得する				
回	テーマ	内 容		
1	神経学的診断と評価	神経学的診断の実際、体幹・四肢の診療と検査 障害の評価		
2	神経学的検査法	画像診断、神経生理学的検査、自律神経機能検査 腰椎穿刺と血液生化学検査		
3	神経症候学	意識障害、脳死、植物状態		
4	神経症候学	頭痛、めまい、失神		
5	神経症候学	運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮		
6	神経症候学	錐体外路徴候、不随意運動		
7	神経症候学	運動失調		
8	神経症候学	感覚障害		
9	神経症候学	高次脳機能障害・総論、失語症		
10	神経症候学	高次脳機能障害：失認、失行		
11	神経症候学	高次脳機能障害：記憶障害		
12	神経症候学	高次脳機能障害：注意障害、遂行機能障害		
13	神経症候学	構音障害		
14	神経症候学	嚥下障害		
15	神経症候学	脳神経外科領域疾患の代表的症候		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第5版 改訂第2版 神経診察クローズアップ 正 しい病巣診断のコツ		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
神経内科学Ⅱ(各論)		作業療法科/2年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	竹中誠(実務経験あり)
授業の概要				
<p>神経内科学とは、中枢・末梢神経系および筋肉の内科的疾患を対象とする臨床医学である。リハビリテーションの対象は、神経筋骨格系に生ずる身体障害であるが、最近は認知を含む高次脳機能障害や障害者の心理社会的側面も対象領域となってきた。特に後者は、専門性が高く、将来飛躍的に需要が伸びる分野であると思われる。本講義は神経内科学総論であり、関連疾患の臨床症状や診断法について述べる。学習目的は関連用語の修得とリハビリテーション医学に於ける障害分析能力の育成である。</p> <p>【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・神経症候学の基礎を理解し、障害の理解が図れる。 ・神経症候を呈する病態・臨床症状・診断・治療を疾患区分ごとに理解できる。 				
回	テーマ	内 容		
1	中枢神経系の解剖と機能	神経学的診断と評価と神経学的検査法		
2	神経診断1	意識障害、脳死、植物状態		
3	神経診断2	運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮		
4	神経診断3	錐体外路徴候、不随意運動、運動失調		
5	各論1	感覚障害		
6	各論2	高次脳機能障害		
7	各論3	構音障害および嚥下障害		
8	まとめ			
9	まとめ			
10	まとめ			
11	まとめ			
12	まとめ			
13	まとめ			
14	まとめ			
15	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
川平和美 他著『標準理学療法学・作業療法学 神経内科学第2版』医学書院。 田崎義昭・齋藤佳雄『ベッドサイドの神経の診かた』南山堂		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神医学		作業療法科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	木下僚介(実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士や作業療法士が臨床の場で必要とされる精神症状や精神疾患、また精神疾患を有する患者の理解・対応に必要な基本的知識を学ぶ。 [実務経験]病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・精神医療の歴史や精神保健福祉にかかわる制度や現代のメンタルヘルスに関する諸問題について理解したり、考えることができる。 ・主要な精神症状や精神疾患の成因・病態・治療法などについて説明できる。 				
回	テーマ	内 容		
1	総論①	精神医学とは、精神医療の歴史		
2	総論②	精神障害の成因と分類、診断と評価		
3	精神症状①	精神機能の障害と精神症状		
4	精神症状②	精神機能の障害と精神症状		
5	器質性精神障害	認知症		
6	精神作用物質による精神および行動の障害	アルコール依存、薬物依存		
7	統合失調症	統合失調症		
8	統合失調症	統合失調症		
9	気分(感情)障害	うつ病、双極性障害		
10	神経症性障害	不安障害、強迫性障害、PTSDなど		
11	生理的障害および身体的要因に関連した障害	摂食障害、睡眠障害		
12	成人のパーソナリティおよび行動の障害	パーソナリティ障害、行動の障害		
13	ライフサイクルにおける精神医学	各時期における心理特性とメンタルヘルス		
14	精神障害の治療	薬物療法、精神療法、リハビリテーション		
15	精神保健医療の現状と課題	精神保健福祉法、医療観察法 精神疾患やメンタルヘルスの諸問題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
上野武治(編):標準理学療法学・作業療法学、精神医学第4版増補版、医学書院、2021.		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
小児科学		作業療法科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	新谷尚久(実務経験あり)
授業の概要				
小児の医療とリハビリテーションをめぐる事柄全般について学習する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
小児の発達について理解し、発達の評価ポイントを理解し、説明できる。 小児で代表的な疾患や臨床症状について理解し、説明できる。				
回	テーマ	内容		
1	小児科学概論 診断と治療の概要	小児科の特徴、成長と発達、栄養と接触、保健 診断と検査、治療法		
2	新生児・未熟児疾患	胎児期、周産期、新生児期、新生児の評価と問題、早産児 の神経学的所見、新生児・周産期異常、疾患		
3	先天異常と遺伝病	遺伝と病気、染色体異常、先天奇形、先天代謝異常症		
4	神経・筋・骨系疾患	中枢神経疾患、てんかん、発達遅滞を伴う疾患、発達障 害、脊髄性疾患、筋疾患、骨・関節疾患		
5	循環器疾患	心血管系の発生と対外環境、症状と検査、発症頻度と原 因、先天性心疾患、後天性心疾患		
6	呼吸器疾患	発生と機能、症状と検査、治療と処置、代表的呼吸器疾患		
7	感染症	症状、診断と治療、各年代での代表的感染症		
8	消化器疾患	消化器の発生、機能的発達と症状、代表的消化器疾患、		
9	内分泌・代謝疾患	内分泌疾患、糖代謝異常		
10	血液疾患	造血組織の発生、血液の成分、赤血球系の異常、白血球系 の異常、出血性・血栓性疾患		
11	免疫・アレルギー疾患、膠原病	免疫、アレルギー、自己免疫疾患、膠原病		
12	腎・泌尿器系、生殖器疾患	腎・泌尿器系疾患、生殖器疾患		
13	腫瘍性疾患	悪性腫瘍の発生頻度、神経芽腫、網膜芽腫		
14	習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾 患・虐待	習癖、睡眠関連病態、心身医学的疾患、児童虐待		
15	重症心身障害児 眼科・耳鼻科的疾患	重症心身障害児の定義および発達、療育の体制 眼科、耳鼻科		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学「小児科学」 第6版：富田豊編集：医学書院		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床医療学(栄養・医用画像・薬理学・救命救急)		作業療法科/2年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	東田・加藤・他 (実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士・作業療法士の臨床実習や就職後において必要な栄養学の知識、脳や運動器のMRI・CT・レントゲン画像の読影、救急救命について学習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・内科疾患におけるリスク管理、栄養指導がわかる。 ・脳画像や運動器画像の正常画像の読影ができる。異常所見により予後を予測する。 ・患者に処方された薬の効用、副作用、リスク管理を理解する。 ・救急時の対応について理解する(AED含む)。 				
回	テーマ	内容		
1	糖尿病の栄養学			
2	脳血管疾患の栄養学			
3	内科疾患における栄養学			
4	正常画像所見1	X-P, MRI, CT, エコーの正常画像の読影(運動器)		
5	正常画像所見2	X-P, MRI, CTの正常画像の読影(脳, 内臓)		
6	疾患別画像所見1	運動器疾患(骨折, 筋・靭帯断裂)		
7	正常画像所見2	脳血管疾患(脳梗塞, 脳出血)部位と症状		
8	正常画像所見3	呼吸・循環器疾患		
9	薬理学1	リスク管理に必要な薬剤の知識1		
10	薬理学2	リスク管理に必要な薬剤の知識2		
11	薬理学3	リスク管理に必要な薬剤の知識3		
12	薬理学4	リスク管理に必要な薬剤の知識4		
13	救急救命1	AEDについて		
14	救急救命2	一次救命処置		
15	救急救命3	一次救命後の対応		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
特定の教科書は使用せず		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション概論		作業療法科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	護摩堂秀之助 (実務経験あり)
授業の概要				
自己学習とグループワークを中心としたアクティブラーニングを通して、医療職に必要な心構え・学習態度を身につけるとともに、リハビリテーションについての基礎的な知識や考え方を学ぶ授業となる。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
知識: リハビリテーションの概念、定義を理解する リハビリテーションに必要な専門基礎学問を理解する 技術: 自己学習やグループワークを通して医療職としての学び方を習得する 態度: 専門職として必要な基本的態度、習慣について自らの行動規範を持ち、行動できる				
回	テーマ	内 容		
1	リハビリテーションとは何か	リハビリテーションの語源		
2	リハビリテーションの歴史	障害者の復権、ノーマライゼーション、自立生活運動		
3	障害の捉え方	ICIDHからICFへ		
4	事例検討	事例を通して考えるリハビリテーション		
5	障害受容	ヒトが病気や障がいを持ったとき		
6	障害者体験	障害者の視点を感じよう		
7	チーム医療	チーム医療の重要性と他職種連携の基本		
8	リハビリテーション専門職の役割①	理学療法士・作業療法士		
9	リハビリテーション専門職の役割②	その他の職種の役割		
10	生活とその人らしさ	ADLとQOL		
11	リハビリテーション関連法規	医療法、福祉六法、障害者総合支援法など		
12	リハビリテーション工学	自助具、福祉用具		
13	栄養とリハビリテーション	栄養、摂食嚥下障害		
14	回復段階によるリハビリテーション	急性期・回復期・生活期		
15	キャリア形成	ジョブカード活用		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
川手信行: リハビリテーション概論のいろは資料配布		期末試験 課題・レポート	60.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
公衆衛生学		作業療法科/4年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中山吉宣(実務経験有)
授業の概要				
人々の基本的な生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習する。【実務経験】保健所勤務(獣医師)				
授業終了時の到達目標				
理学療法士・作業療法士として、障害に対するリハビリテーションの担い手となるだけでなく、人が生きる全体像をとらえる視点を持ち、予防の概念に基づき、健康増進へ貢献できる医療人となる。				
回	テーマ	内 容		
1	公衆衛生と健康の概念	公衆衛生と健康の概念		
2	疫学	疫学指標の算出、疫学研究と倫理		
3	保健統計	人口動態統計(出生、死産、婚姻、離婚、死亡、死因分類、)		
4	医の倫理と患者の人権	医の倫理と患者の人権		
5	終末期医療と死の概念	終末期医療と死の概念		
6	医療法と医療体制	医療法と医療体制		
7	社会保障と医療経済	社会保障と医療経済		
8	成人保健と健康増進	成人保健の現状と生活習慣病、リスク因子、予防対策		
9	母子保健	親子保健対策、関連法規、		
10	高齢者保健	高齢者と介護保険		
11	障害者福祉、精神保健福祉	精神保健の実際、健康関連行動		
12	感染症対策	感染症の流行状況、主たる感染症、感染症対策、検疫		
13	食品保健と栄養	食生活、食行動、食環境、身体活動と運動		
14	学校保健、産業保健	学校保健、産業保健		
15	環境保健、国際保健	環境衛生(生態系、地球希望の環境、公害、廃校、廃棄物処理、放射線)		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
公衆衛生がみえる: MEDIC MEDIA		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会保障論		作業療法科/4年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	梶直美(実務経験あり)
授業の概要				
本講義では、憲法25条生存権を核とし、医療保険とリハビリテーション・介護保険とリハビリテーションについての理解を深めることを目的とする。【実務経験：病院勤務】				
授業終了時の到達目標				
社会保障の目的について理解できる 社会保障制度について理解できる。				
回	テーマ	内 容		
1	概論	社会保障とは		
2	社会保障制度	範囲と理念		
3	社会保険	構造		
4	社会扶助	構造		
5	国民年金	実態と近年の動向		
6	介護保険制度とリハビリテーション	特定疾病16種類の理解		
7	医療保険とリハビリテーション	施設基準と保険点数など		
8	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		レポート	100.0%	

科目名		学科・学年	年度・時期	授業形態
多職種連携		作業療法科/2年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	西潟 央(実務経験あり)
授業の概要				
医療および地域リハビリテーションに関わる様々な職種との連携について学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムについて理解する。 ・医療における他職種連携について理解する。 ・介護保険下での多職種連携について理解する。 				
回	テーマ	内 容		
1	地域包括ケアシステムについて			
2	地域ケア会議について			
3	ケアマネージャーについて			
4	MSWについて			
5	医療・介護・地域との連携について考える	グループワーク		
6	医療・介護・地域との連携について考える	グループワーク		
7	医療・介護・地域との連携について考える	グループ発表		
8	医療・介護・地域との連携について考える	グループ発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法概論Ⅰ		作業療法科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	梶直美(本学) 梶直美(実務経験有)
授業の概要				
作業療法領域全体を概説する。作業療法がどのような人たちに対し、どのようなことを目的として、どのような手段を用いて介入するのか、作業療法の専門性や役割、専門職としての作業療法士についての概要を学ぶ。作業療法を学ぶ上での出発点として位置付けられる科目である。また、MTDLPをとおして評価から統合と解釈、治療までの作業療法の流れを理解する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 作業療法の基本的な考え方、枠組み、役割を理解し、説明ができる。 作業療法の対象者と活動領域を理解し、説明ができる。 				
回	テーマ	内容		
1	総論	作業療法の歴史・定義・法律・倫理		
2	国際生活機能分類からとらえる健康	ICF 多職種連携		
3	作業療法の理論①	6つの理論 生体力学モデル		
4	作業療法の理論②	作業科学 人間作業モデル		
5	身体障害分野の作業療法①	身体障害作業療法概論		
6	身体障害分野の作業療法②	身体障害作業療法 対象 脳血管・運動器		
7	精神障害領域の作業療法①	精神障害とは		
8	精神障害領域の作業療法②	精神障害領域の作業療法概論		
9	高次脳機能障害の作業療法	高次脳機能障害とは		
10	発達障害領域の作業療法①	肢体不自由児 脳性麻痺、先天性股関節脱臼、筋ジストロフィー		
11	発達障害領域の作業療法②	発達障害、定義、教育的リハ、就労支援		
12	高齢期領域の作業療法①	高齢期とは		
13	地域作業療法	通所リハ、地域包括センター、障害者総合支援法		
14	MTDLP①			
15	MTDLP②			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
長崎重信 作業療法学概論 改訂第2版 メジカルビュー社		期末試験	100.0%	総論5、身体障害25、精神障害20、高齢期20、発達障害15、地域15

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法概論Ⅱ		作業療法科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	梶 直美(実務経験有)
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・理論には、関連用語があるため、用語を含めた理論背景を学ぶ ・理論の適応範囲や対象を知る ・理論を5W1Hで理解する【実務経験】病院勤務 				
授業終了時の到達目標				
理論を学び、実践で活用できるように理解することにより、作業療法実践の質の向上につなげる。				
回	テーマ	内 容		
1	総論	作業療法のモデル		
2	COPM	検査方法 検査体験		
3	人間作業モデル	総論		
4	人間作業モデル	事例		
5	行動変容モデル DVD: コレス骨折	グループ発表①		
6	川モデル DVD: 認知症	グループ発表②		
7	CI療法	グループ発表③		
8	認知行動療法	グループ発表④		
9	認知機能リハ	グループ発表⑤		
10	生体力学モデル	グループ発表⑥		
11	その他の理論	グループ発表⑦		
12	作業療法を観る	事例①		
13	作業療法を観る	事例②		
14	作業療法を観る	事例③		
15	作業療法を観る	事例④		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ 聖村恵子編集 作業療法概論第3版 メジカルビュー社 ・ 斎藤佑樹編集 作業で語る事例報告第2版 医学書院 ・ 副教材 菊池恵美子監修 作業療法を観る CBR 		期末試験 発表 ワークシート	60.0% 20.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎作業学Ⅰ（作業分析）		作業療法科/1年	2024/後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	梶原美（実務経験有）

授業の概要

作業を手段として用いる作業療法にとって、作業の適切な利用が求められる。作業がどのような治療的意味を持つのか、どのように治療的に用いられるのか、その特性等について知ることは作業療法を実施する上で重要である。また、治療的手段として用いられる作業種目を多く知ることは、その選択の幅を広げる。

本講義では実際に作業を体験し、作業工程や作業の持つ特性について理解を深めていくことを主題とする。【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

- ・作業・作業活動の意味について理解を深める。
- ・治療的手段としての作業を身体的（運動学的）・精神的側面から学び理解する。
- ・作業に必要な用具や材料および作業工程を理解できる。
- ・基本的な作業活動の工程分析の視点を学び理解する。
- ・作業を行う上での注意事項について理解できる。

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	作業の定義、分類、治療的意味等
2		
3		作業分析の概要
4		包括的作業分析
5	作業活動 1	罫線描きの動作分析
6	作業活動 2	罫線描きの動作分析
7	作業活動 3	革細工（スタンピング）
8	作業活動 4	革細工（スタンピング）
9	作業活動 5	革細工（スタンピング）
10	作業活動 6	革細工（スタンピング）
11	作業活動 7	陶芸
12	作業活動 8	陶芸
13	作業活動 9	陶芸
14	作業活動 10	陶芸
15	作業活動 11	

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
・つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル 第2版：古川 宏 監修。医歯薬出版、2012	課題・レポート	100.0%	実技中心の科目です。動きやすく、汚れても良い服装で臨んでください。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎作業学Ⅱ (技術・演習)		作業療法科/2年	2024/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	木下僚介(実務経験あり)
授業の概要				
<p>作業療法士が用いる作業を様々な視点から考えたり、分析したり、作業に焦点を当てて実践できるようになるために、実践(演習)やグループワークを通して理解を深めていく。 【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・作業についての理解を深め、作業療法における作業の意義を言語化できる。 ・対象者にとっての作業の意味について、多角的な視点から考察し、説明することができる。 ・各作業種目の作業特性を説明したり、段階付けや適応疾患について検討することができる。 ・自分の実践について作業・作業遂行の視点から振り返ることができる。 				
回	テーマ	内容		
1	作業学概論①	作業とは何か		
2	作業学概論②	作業をどう活用するか		
3	作業学概論③	作業に焦点を当てた実践とは		
4	作業遂行の評価	作業分析、個人作業、集団作業		
5	作業特性の理解と活用①	作業体験・分析・段階付け		
6	作業特性の理解と活用②	作業体験・分析・段階付け		
7	作業提供①	演習(評価・計画・準備)		
8	作業提供②	演習(評価・計画・準備)		
9	作業提供③	演習(実践)		
10	作業提供④	演習(振り返り)		
11	作業と心理	作業と心理の相互作用		
12	作業とライフステージ	各ライフステージに応じた作業の視点		
13	作業療法士に求められる能力	事例を通して考える作業療法士の能力		
14	作業療法士に求められる能力	事例を通して考える作業療法士の能力		
15	作業の意義	意味のある作業の支援に向けて		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
古川宏：作業活動実習マニュアル、第2版、医歯薬出版 濱口豊太：基礎作業学、第3版、医学書院 齋藤佑樹：作業で語る事例報告、第2版、医学書院		課題・レポート	100.0%	

作成者: 中川 等史
授業形態

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎作業学Ⅲ (レクリエーション)		作業療法科/3年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須/選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	中川 等史 (実務経験有)

授業の概要

本講義ではレクリエーション活動の社会的意義、レクリエーションの援助者としての役割について理解させる。また、レクリエーションサービスのポイントを理解し、レクリエーション計画の作成能力および実践援助能力の習得を目指す。E-スポーツを取り入れたレクリエーションを障害がある方々へQOLの拡大、コミュニケーションの拡大を目的に実施する。【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

レクリエーションと余暇活動、社会参加との関連が理解できる。
障害別レクリエーションを治療的に考え、計画し実行することが出来る

回	テーマ	内容
1	レクリエーションの概念・治療的応用	レクリエーションの基本的理念から概念および治療的な応用について
2	障害別レクリエーションを考える	中心系疾患や整形外科疾患、精神疾患、発達系疾患やその他の障害別レクリエーションについて考える
3	レクの計画と実施①	グループワークにてレクの計画を立てる
4	レクの計画と実施①	実際に計画してレクを実行
5	レクの結果発表と反省①	実行したレクの結果や反省点などを発表
6	レクの計画と実施②	グループワークにてE-スポーツレクの計画を立てる
7	レクの計画と実施②	実際にE-スポーツレク計画をしてレクを実行
8	レクの結果発表と反省②	実行したE-スポーツレクの結果や反省点などを発表
9	レクの計画と実施②	グループワークにてレクの計画を立てる
10	レクの計画と実施②	実際に計画してレクを実行
11	レクの結果発表と反省②	実行したレクの結果や反省点などを発表
12	レクの計画と実施②	グループワークにてレクの計画を立てる
13	レクの計画と実施②	実際に計画してレクを実行
14	レクの結果発表と反省②	実行したレクの結果や反省点などを発表
15	まとめ	これまでの治療的レクリエーションの結果及びまとめ

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
寺山久美子監修：レクリエーション 社会参加を促す治療的レクリエーション改訂第2版、三輪書店、2014	課題・レポート・発表	100.0%	

作成者:丁子

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
研究方法論Ⅰ(抄読)		作業療法科/2年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	丁子(実務経験有)
授業の概要				
科学的根拠に基づいて意思決定を行うために、客観的な立場から批判的にデータを読み解く視点を習得する。【				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・クリティカルリーディングの視点を理解する。 ・質的研究、量的研究、混合研究の違いを理解できる。 ・EBMを理解できる。 				
回	テーマ	内容		
1	文献検索の仕方、文献レビュー	レビューの仕方		
2	エビデンスの分類	エビデンスの階層		
3	診断の指標			
4	研究倫理	倫理審査		
5	質的研究	M-GIA		
6	質的研究	内容分析		
7	質的研究	KJ法		
8	混合研究、質的研究	テキストマイニング		
9	文献抄読	抄読①		
10	文献抄読	抄読②		
11	症例・事例報告	症例・事例報告		
12	症例・事例研究	症例・事例研究		
13	量的研究	2群間比較		
14	量的研究	相関・回帰		
15	量的研究	多変量解析		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
超実践 シングルケースデザイン、金芳堂、2020		課題・レポート	100.0%	

作成者: 丁子

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
研究方法論Ⅱ (方法)		作業療法科/4年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	丁子雄希(実務経験有)
授業の概要				
研究とは何か、研究の進め方はどのように行うか、研究成果のまとめ方などの研究法について学習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
研究法の種類(質的研究、量的研究、事例研究、症例報告)の違いや、研究の流れを理解することができる。				
回	テーマ	内容		
1	仮説の立て方①	仮説とは		
2	仮説の立て方②	仮説生成と仮説検証		
3	文献収集の仕方①	電子ジャーナルの使用		
4	文献収集の仕方②	ハンドリサーチ		
5	研究計画書の作成の仕方①	計画書の流れ		
6	研究計画書の作成の仕方②	実演		
7	倫理審査について	倫理審査委員会の流れ		
8	データ収集の仕方①	データの質と量		
9	データ収集の仕方②	収集方法		
10	データ解析①	解析方法の紹介		
11	データ解析②	実演		
12	発表準備①	抄録の作成の仕方		
13	発表準備②	スライドの作成の仕方		
14	発表準備③	発表準備		
15	発表会(クリティーク)			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・リハ研究の進め方・まとめ方、志波直人(編著)、医歯薬出版株式会社 作業療法研究法、医歯薬出版株式会社 ・超実践 シングルケースデザイン、金芳堂、2020		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法管理学Ⅰ		作業療法科/2年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	西潟・中川(実務経験有)
授業の概要				
作業療法士における職業倫理や職場における管理業務等について学ぶ【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・職業倫理を身につけることができる。倫理観を持って病院実習に臨む基本ができるようになる ・ハラスメントや守秘義務・個人情報管理の理解、コミュニケーションスキルを身につける ・職場管理業務を学び、診療の流れや記録、備品管理等の業務理解ができる。 				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	作業療法管理学とは		
2	常識とマナー	医療現場での常識やマナーについて学ぶ		
3	医療機関の安全管理	医療現場での安全管理について学ぶ(健康チェックやリスク管理)		
4	守秘義務	医療現場での守秘義務について		
5	個人情報	医療機関での個人情報の管理について		
6	情報管理	医療機関での情報の管理について		
7	記録と報告	医療現場での記録及び報告について(電子カルテなど)		
8	倫理とハラスメント	医療場面での倫理やハラスメントについて		
9	コミュニケーションスキル	職場でのコミュニケーションスキルについて		
10	多職種連携	多職種連携とは		
11	クリニカルクラークシップ	診療参加型臨床実習について		
12	クリニカルリーズニング	クリニカルリーズニングとは		
13	MTDLPとは	生活行為向上マネジメントについて		
14	ストレスチェック	職場でのストレスチェックについて		
15	職場管理	医療現場での管理業務とは		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・OT臨床実習ルートマップ:メジカルビュー社(齋藤佑樹・菊池恵美子著) ・作業療法学ゴールドマスターテキスト 作業療法学概論(改訂第2版):メジカルビュー社(長崎重信・里村恵子) 		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法管理学II (保険制度)		作業療法科/3年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	西潟・護摩堂(実務経験有)
授業の概要				
作業療法士における医療現場でのリスク管理について具体的に事例を挙げて学ぶ。治療や転倒、退院に向けた保険制度等についても学ぶ。アクティブラーニングを中心に進めていく。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・急性期でのリスク管理(病態の急変やリハ中止基準など)について理解する ・回復期でのリスク管理(合併症、痛みなど)について理解する ・外来でのリスク管理(血圧、めまいなど)について理解する ・介護老人保健施設でのリスク管理(不穏や不眠など)について理解する ・在宅リハでのリスク管理(浮腫や息切れ、低栄養など)について理解する ・地域での予防事業および取り組みについて理解する 				
回	テーマ	内 容		
1	リスク管理総論	リスク管理に対する医学的知識の整理		
2	介護保険制度	介護保険と予防給付		
3	地域包括ケアシステム	予防と地域の取り組み		
4	急性期ケース3	脳梗塞増悪事例		
5	急性期ケース4	くも膜下出血後の意識レベル低下事例		
6	急性期ケース5	脳出血後の痙攣事例		
7	回復期ケース1	動機を訴える事例		
8	回復期ケース2	脳梗塞後の上肢痛事例		
9	回復期ケース3	嘔吐事例		
10	外来ケース1	突然の意識障害事例		
11	外来ケース2	徐脈でのふらつき事例		
12	外来ケース3	訓練中の血圧低下事例		
13	在宅ケース1	原因不明の腹痛事例		
14	在宅ケース2	糖尿病 気分不快事例		
15	在宅ケース3	低栄養・意識障害事例		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
宮越紘一著：リハビリテーションリスク管理(ケーススタディ)：メジカルビュー社		事例発表 レポート	60.0% 40.0%	

科目名		学科・学年	年度・時期	授業形態
作業療法評価学概論Ⅰ		作業療法科, 1年	2024, 後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員 白瀬雅登 (実務経験あり)
90分	15回	1単位(30時間)	必須	
<p>作業療法とは、どのように実践していくのかを知り、治療に結びつく評価の仕方を学ぶ。 【実務】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
作業療法評価の概念を理解し、実践に結びつく知識を身に付ける				
回	テーマ	内 容		
1	総論	作業療法評価とは		
2	各論①	ICF		
3	各論②	ICF		
4	各論③	ICF		
5	各論④	作業療法の流れ		
6	各論⑤	作業療法の流れ		
7	各論⑥	観察と面接		
8	各論⑦	観察の仕方		
9	各論⑧	面接の仕方		
10	各論⑨	MTDLP		
11	各論⑩	MTDLP		
12	各論⑪	MTDLP		
13	各論⑫	MTDLP		
14	各論⑬	MTDLP		
15	各論⑭	MTDLP		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・能登頁一他: 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版、医学書院		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度・時期	授業形態
作業療法評価学概論II (含む画像評価)		作業療法科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	白瀬雅登(実務経験有)
授業の概要				
画像読影の基礎知識を身につける。 また作業療法評価学概論Iを受けて、評価学全般の基礎を学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・MRIとCTの違いが理解できる。 ・領域共通の評価方法を理解し、列挙できる。 ・エコー画像を知ることができる 				
回	テーマ	内容		
1	協調性検査	協調性検査		
2	脳神経検査	脳神経検査法		
3	排泄機能評価	排泄機能評価		
4	上肢機能検査	STEF		
5	姿勢反射検査1	原始反射		
6	姿勢反射検査2	姿勢反射		
7	QOL評価	QOL、興味、役割		
8	脳画像読影の基礎知識1	脳解剖の基礎		
9	脳画像読影の基礎知識2	MRIとCTの違い		
10	脳画像	脳梗塞		
11	脳画像	脳出血		
12	脊柱画像	ヘルニア、圧迫骨折		
13	上肢・下肢画像(エコーも含む)	骨折		
14	内臓画像	肺炎		
15	総括			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
中島雅美ら(編集): PT/OT基礎から学ぶ 画像の読み方 第3版 国試画像問題攻略 能登真一ら(編集): 標準作業療法学 作 業療法評価学 第3版 医学書院		実習・実技評価 課題・レポート	50.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
身体機能評価学Ⅰ		作業療法科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	白瀬・竹内(実務経験有)
授業の概要				
作業療法評価学概論Ⅰ・Ⅱを受けて、身体障害分野における評価方法を学ぶ。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 疾患別の評価方法を列挙できる。 関節可動域測定、筋力検査を正確に実施できる。 				
回	テーマ	内 容		
1	身体機能評価法概論			
2	脳血管障害の評価1	脳血管障害の評価方法概論		
3	脳血管障害の評価2	各種検査法		
4	頭部外傷の評価			
5	脊髄損傷の評価1	脊髄損傷の評価方法概論		
6	脊髄損傷の評価2	各種検査法		
7	末梢神経の評価			
8	関節リウマチ・全身性エリトマトーデス・多発性筋炎の評価			
9	神経疾患の評価	ギランバレー、パーキンソン病、ALSなど		
10	内部疾患の評価	心臓機能障害、呼吸器機能障害、悪性腫瘍		
11	関節可動域測定1	上肢		
12	関節可動域測定2	上肢		
13	関節可動域測定3	上肢		
14	関節可動域測定4	上肢		
15	関節可動域測定5	手指		

回	テ - マ	内 容		
16	関節可動域測定 6	手指		
17	関節可動域測定 7	体幹・下肢		
18	関節可動域測定 8	体幹・下肢		
19	関節可動域測定 9	体幹・下肢		
20	関節可動域測定 10	体幹・下肢		
21	筋力測定 1	上肢		
22	筋力測定 2	上肢		
23	筋力測定 3	上肢		
24	筋力測定 4	上肢		
25	筋力測定 5	手指		
26	筋力測定 6	手指		
27	筋力測定 7	体幹・下肢		
28	筋力測定 8	体幹・下肢		
29	筋力測定 9	体幹・下肢		
30	筋力測定 10	体幹・下肢		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
能登真一ら（編集）：標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院		実習・実技評価	100.0%	OSCEをもとに 実技試験を行います。

作成者 護摩堂秀之助

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
身体機能評価学Ⅱ		作業療法科/2年	2024/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	護摩堂秀之助(実務経験有り)
授業の概要				
各種疾患に対する身体機能の評価を、講義や実技を通して学ぶ。特に、評価項目の選択・実施を中心に授業を展開していく。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
各種疾患に対して、適切な評価を選択できる。また、その評価を選んだ理由を説明することができる。模擬患者に対して、説明を行い、同意を得たうえで、適切に評価を実施することができる。				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション、面接			
2	脳血管障害(1)	各種評価の確認		
3	脳血管障害(2)	各種評価の確認		
4	脳血管障害(3)	症例検討		
5	脳血管障害(4)	症例検討		
6	脳血管障害(5)	症例検討		
7	脊髄損傷(1)	各種評価の確認		
8	脊髄損傷(2)	各種評価の確認		
9	脊髄損傷(3)	症例検討		
10	脊髄損傷(4)	症例検討		
11	Parkinson病(1)	各種評価の確認		
12	Parkinson病(2)	各種評価の確認		
13	Parkinson病(3)	症例検討		
14	Parkinson病(4)	症例検討		
15	下肢の骨折(大腿骨頸部骨折)(1)	各種評価の確認		

回	テ ー マ	内 容		
16	下肢の骨折（大腿骨頸部骨折） （2）	各種評価の確認		
17	下肢の骨折（大腿骨頸部骨折） （3）	症例検討		
18	下肢の骨折（大腿骨頸部骨折） （4）	症例検討		
19	脊椎の骨折（腰椎圧迫骨折）（1）	各種評価の確認		
20	脊椎の骨折（腰椎圧迫骨折）（2）	各種評価の確認		
21	脊椎の骨折（腰椎圧迫骨折）（3）	症例検討		
22	脊椎の骨折（腰椎圧迫骨折）（4）	症例検討		
23	上肢の末梢神経損傷（1）	各種評価の確認		
24	上肢の末梢神経損傷（2）	各種評価の確認		
25	上肢の末梢神経損傷（3）	症例検討		
26	上肢の末梢神経損傷（4）	症例検討		
27	関節リウマチ（1）	各種評価の確認		
28	関節リウマチ（2）	各種評価の確認		
29	関節リウマチ（3）	症例検討		
30	関節リウマチ（4）	症例検討		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
能登真一ら（編集）：標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院		期末試験	100.0%	実習の際は、動きやすい服装で参加してください。

科目名		学科・学年	年度・時期	授業形態
精神機能評価学		作業療法科/2年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	木下僚介(実務経験あり)
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者に対する作業療法士の役割や評価時の視点・知識・態度を学習・実践する。 ・精神科作業療法における評価の目的や意義を理解し、評価技術の習得や地域生活に向けた臨床思考過程を学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 精神科における評価の流れを理解し、様々な評価の視点や目的を理解し、説明することができる。 2. 観察・面接・各種評価法を理解し、実践できる。 3. 個人情報にも留意しながら、評価した結果を適切に記録として残すことができる。				
回	テーマ	内 容		
1	精神障害領域における作業療法	作業療法士の役割		
2	評価のプロセス・方法	評価の目的と留意点		
3	情報収集	情報収集の目的と方法		
4	記録と個人情報	記録方法と個人情報の取り扱い		
5	観察法①	観察の目的と方法		
6	観察法②	演習(観察チェックリストの活用)		
7	観察法③	演習(観察と記録)		
8	面接法①	面接の意義、原則		
9	面接法②	演習(情報収集面接)		
10	面接法③	演習(質問紙を用いた面接)		
11	面接法④	演習(質問紙を用いた面接)		
12	面接法⑤	演習(作業面接)		
13	対象者とのコミュニケーション	傾聴と共感		
14	検査法①	評価尺度の活用と留意点		
15	検査法②	様々な評価尺度		

回	テーマ	内 容		
16	集団における評価	評価の視点		
17	状態像による評価	医学的視点からの評価		
18	回復段階に応じた評価①	急性期・回復期・維持期		
19	回復段階に応じた評価②	長期在院者、地域生活期・就労		
20	評価のまとめ	全体像の把握と解釈		
21	目標設定	目標設定の視点と治療への展開		
22	疾患別の評価①	統合失調症		
23	疾患別の評価②	気分障害		
24	疾患別の評価③	アルコール使用障害		
25	疾患別の評価④	その他の疾患		
26	行動制限	隔離・身体拘束		
27	事例検討	統合失調症例		
28	事例検討	統合失調症例		
29	事例検討	統合失調症例		
30	事例検討	統合失調症例		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	・標準作業療法学 作業療法評価学 第3版. ・標準理学療法学・作業療法学 精神医学 第4版.	期末試験 課題・レポート 実習・実技評価	50.0% 10.0% 40.0%	・精神医学や心理学で学習した内容も深く関連するため事前に復習しておくこと.

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
高次脳機能評価学		作業療法科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	諏摩堂 秀之助 (実務経験あり)
授業の概要				
高次脳機能の評価方法を身に着ける【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
高次脳機能の評価の目的と方法を理解し、患者にあった評価を選択できるようにする				
回	テーマ	内容		
1	高次脳機能障害概論	神経系の構造と機能		
2	検査法	MMSC		
3	検査法	HDS-R		
4	検査法	コース立方体		
5	検査法	記銘力検査(S-PA)		
6	検査法	リバーミード行動記憶検査		
7	検査法	レイの複雑図形		
8	検査法	TMT-A, B/かな拾いテスト		
9	検査法	CAT		
10	検査法	BIT		
11	検査法	FAB		
12	検査法	BADS		
13	検査法	SDSA		
14	検査法	その他		
15	検査法	その他		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
能登真一ら編集 作業療法評価学第3版 医学書院 医療情報科学研究所編集 病気がみえる vol17 脳・神経第2版 MEDIC MEDIA		実習・実技評価 期末試験	40.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
発達機能評価学		作業療法科/2年	2024/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	中川等史(実務経験有)
授業の概要				
<p>子どもの障害特性を理解し、対象となる疾患や障害に対するの作業療法評価を概説し、病態、評価についての講義を行う。基本的な評価手法を紹介し、主要な評価については演習を通して学習する。 【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 面接を行ううえでの留意点を説明できる。 発達を評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できる。 感覚統合の発達モデルについて説明できる。 行動を評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できる。 				
回	テーマ	内容		
1	発達過程作業療法における家族との面接と情報収集・発達検査	面接技術や情報集項目、発達検査の種類について		
2	発達全般をを評価する検査・運動機能評価	各種検査の内容、マイルストーン、脳性麻痺児の評価・検査表について		
3	感覚統合機能の評価・視知覚、視覚認知の評価	感覚統合にかかわる検査、視知覚発達検査、視覚認知評価について		
4	知能・認知機能の評価、行動評価	知能検査各種、行動評価にかかわる検査各種		
5	作業遂行・身辺自立の評価	ADL評価表各種、AMPS、ESI		
6	検査実習1	知能検査実習		
7	検査実習2	視知覚検査、SM式検査		
8	検査実習3	JMAP		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
能登真一他編：標準作業療法学 作業療法評価学		期末試験 実習・実技評価	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
高齢期評価学		作業療法科/2年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	白瀬雅登(実務経験有り)
授業の概要				
講義や実技を通して、高齢期障害の特徴や各種評価の特性を学ぶ。また、症例検討を通して、患者に応じた評価の選択を練習していく。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
高齢期障害の特徴を理解したうえで、適切に評価項目を選択できる。また、その評価を選択した理由を説明できる。				
回	テーマ	内容		
1	高齢期障害とは	高齢期の健康状態、生理・心理的特徴、廃用症候群、体力、活動能力、意欲		
2	評価すべき項目			
3	認知・知的機能評価(1)	HDS-R、MMSE		
4	認知・知的機能評価(2)	国立精研式認知症スクリーニングテスト、柄澤式老人知能の臨床的判定基準		
5	認知・知的機能評価(3)	GBSスケール、N式老年者用精神状態尺度(NMスケール)		
6	認知・知的機能評価(4)	日本語版MoCA(MoCA-J)、MOSES、FAST		
7	認知症者の行動・心理症状(BPSD)に関する評価(1)	BPSDとは		
8	認知症者の行動・心理症状(BPSD)に関する評価(2)	認知症行動障害尺度(DBD)、日本語版NPI-Q、アルツハイマー病行動病理学尺度		
9	障害高齢者の日常生活自立度判定基準、認知症高齢者の日常生活判定基準			
10	老年うつ病スケール			
11	地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメントシート、介護度			
12	アセスメント			
13	症例検討会(1)			
14	症例検討会(2)			
15	症例検討会(3)			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
能登真一ら(編集):標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院		期末試験	100.0%	

作成者:長谷川

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
義肢学		作業療法科/2年	2024 後期	講義(演習を含む)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	長谷川丈剛(実務経験あり)
授業の概要				
本講義では、切断と義肢について基礎理論から適合技術、日常生活の指導に至るまで教授する。 【実務経験】製作所勤務				
授業終了時の到達目標				
切断に対応した義肢が選択できる。 義肢を生活上で使用する上での注意点を理解することができる。				
回	テーマ	内 容		
1	概要	切断と義肢の歴史		
2	切断術	術式		
3	大腿義足①	大腿義足の名称、ソケット		
4	大腿義足②	膝継手、足継手		
5	大腿義足③	チェックアウト		
6	大腿義足④	適応基準		
7	下腿義足①	下腿義足の名称、ソケット		
8	下腿義足②	足継手		
9	下腿義足③	チェックアウト		
10	下腿義足④	適応基準		
11	股義足①	股義足の名称、ソケット		
12	股義足②	チェックアウト		
13	サイム～足部義足	チェックアウト		
14	術直後義肢装着法	チェックアウト		
15	まとめ	復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『義肢装具学』千住秀明 監修 神陵文庫 『下肢切断の理学療法』細田多穂 編著 医歯薬出版 『義肢学』澤村誠志 編 医歯薬出版		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
装具学		作業療法科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中川・竹中(実務経験有)
授業の概要				
装具の定義、目的、原理などについて学んだ後、構成する部品、装具の種類、適合判定について学習する。				
授業終了時の到達目標				
装具の分類、機能、目的について述べる事が出来る。 疾患や対象者に合った装具を選定および作製できる。				
回	テーマ	内容		
1	装具学総論・下肢装具の構成部品とチェックアウト	装具の目的、機能、対象疾患、分類、3点固定の原理 装具作成の流れ 下肢装具の代表的な構成部品の名称と機能特徴 基本的なチェックアウトについて		
2	足継手の制御機構	足継手の種類と機構 足継手による足部関節の制限・制御メカニズム		
3	末梢神経障害の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
4	脳卒中片麻痺の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
5	対麻痺の装具	装具の名称と残存機能レベルに応じた適応について 装具の機能と特徴について		
6	整形外科的装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
7	頸椎疾患・胸腰椎疾患の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
8	小児疾患の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
9	靴型装具、車椅子・杖 リハロボット、介護ロボット	靴型装具の基本構造と機能特徴とメカニズムについて 車椅子・杖の種類と特徴 各部位の名称について リハ・介護分野のロボティクスについて		
10	脊椎側弯症の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
11	関節リウマチの装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
12	スプリント作成①	作業療法士が作製するスプリントについて		
13	スプリント作成②	カックアップスプリント		
14	スプリント作成③	短対立スプリント		
15	義肢装具の給付制度	義肢装具の給付制度の種類と概要について理解する 治療用(医療用)、構成用義肢装具における費用の申請方法について理解する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「PT・OTビジュアルテキスト義肢装具学第2版」高田治実 監修 羊土社		期末試験	100.0%	教科書は必ず持参する 歩行分析においては、実習着を着用すること。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日常生活活動Ⅰ(総論)		作業療法科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	白瀬 雅登(実務経験有)
授業の概要				
講義や実技練習を通して、日常生活活動の概念と種類、基本動作から身辺動作、日常生活活動の特徴を理解する。また、各動作・活動の補助・誘導及び評価・治療計画の立案を学習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
日常生活活動の概念と種類、基本動作から身辺動作、日常生活活動の特徴をふまえたうえで、各動作・活動の補助・誘導及び評価・治療計画の立案ができるようになる。				
回	テーマ	内 容		
1	日常生活活動の概念と種類(1)			
2	日常生活活動の概念と種類(2)			
3	基本動作(1)	寝返り、起き上がり		
4	基本動作(2)	立ち上がり		
5	基本動作(3)	移乗		
6	基本動作(4)	移動		
7	身辺動作(1)	食事		
8	身辺動作(2)	整容		
9	身辺動作(3)	更衣		
10	身辺動作(4)	排泄		
11	身辺動作(5)	入浴		
12	日常生活関連動作(1)	家事・家屋管理		
13	日常生活関連動作(2)	買い物、公共交通機関の利用		
14	福祉用具	福祉用具体験講座		
15	福祉用具	福祉用具体験講座		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
藤井浩美 他 編:作業療法学ゴールド・マスター・テキスト日常生活活動(ADL)(改訂第2版) 中央法規 濱口豊太:標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版 医学書院 2017		期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%	実技の際は、アクセサリー類は外し、動きやすく服装で臨んでください。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日常生活活動Ⅱ（各論）		作業療法科/2年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	白瀬雅登（実務経験有）
授業の概要				
<p>様々な障害を持つ人々に対する生活技術の支援方法等について学習します。また、介護ロボットについての先端技術についても知識を得る。 【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 日常生活活動における正常動作とその工程を理解・説明できる。 日常生活活動における各動作を評価できる。 日常生活活動障害について理解・説明できる。 自助具について、その概要を理解し説明・発表することができる。 作業療法の対象となりやすい代表的な疾患・障害と日常生活活動障害の関連性を理解・説明できる。 				
回	テーマ	内 容		
1	日常生活動作概論	日常生活活動Ⅰの振り返り ADL動作とは（科目の概要）		
2	基本動作・工程分析	臥位、坐位、立位、起立動作・介護ロボット		
3	ADL動作・工程分析	食事・食事ロボットについて		
4	ADL動作・工程分析	整容		
5	ADL動作・工程分析	更衣		
6	ADL動作・工程分析	入浴・トイレ・介護ロボット		
7	ADL動作・工程分析	コミュニケーション 移乗・移動・介護ロボット		
8	IADL動作・工程分析	外出、買い物、通勤通学 洗濯、掃除		
9	IADL動作・工程分析	調理 統合と解釈		
10	自助具	概要		
11	自助具	フィールドワーク 発表		
12	疾患別ADL	脳血管障害		
13	疾患別ADL	脊髄損傷		
14	疾患別ADL	運動器疾患 高齢期		
15	疾患別ADL	神経筋疾患 その他		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<p>【教科書】 ・クリニカル作業療法シリーズ 日常生活活動の作業療法 第1版 藤井浩美ら（編）、中央法規、2014</p> <p>【参考書】 ・作業療法ガイド マスターテキスト 日常生活活動学（ADL）：木之瀬隆（編）、ジグザグ社、2016</p>		課題・レポート	100（%）	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会適応学 (IADL)		作業療法科/3年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	演習
90分	15回	1単位(30時間)	必須	砂原 伸行、白瀬 雅登 (実務経験者)
授業の概要				
講義や実技を通して、各疾患や障害の特性を踏まえたIADLや社会参加について学びます 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
各疾患や障害の特性を理解したうえで、IADLの評価・練習を実施することができる。 社会参加の促進について、その援助方法やプロセスを理解することができる。				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション	社会適応学 (IADL) とは		
2	調理活動	調理動作の特徴		
3	調理活動	脳卒中片麻痺、高次脳機能障害、関節リウマチに対する調理動作の支援		
4	調理活動	演習		
5	家事動作 (掃除・洗濯)	掃除・洗濯の特徴		
6	家事動作 (掃除・洗濯)	脳卒中片麻痺に対する掃除・洗濯支援		
7	家事動作 (掃除・洗濯)	演習		
8	育児	脊髄損傷者の育児支援		
9	外出	自動車運転		
10	外出	公共交通機関の利用		
11	外出	演習		
12	余暇活動	手工芸的活動、絵画・塗り絵、ゲーム		
13	余暇活動	園芸、外出、外食・旅行		
14	余暇活動	演習		
15	総括			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 日常生活活動学 (ADL) 改訂第2版		期末試験 レポート課題	50.0% 50.0%	実技の際は、動きやすい服装で臨んでください。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
身体障害治療学Ⅰ		作業療法科/3年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	護摩堂秀之助(実務経験有)
授業の概要				
<p>身体障害に対する作業療法について、各疾患別に評価・訓練について教授する。また模擬患者を通して評価から治療の一連の流れについて理解する。 【実務経験】 病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>各疾患に対するリスクをふまえた上で、作業療法の評価から治療の一連の流れが理解できる。 疾患に応じた適切な評価方法が立案できる。 各評価結果からICFにまとめることができる</p>				
回	テーマ	内 容		
1	身体障害に対する基本的知識①	概論、身体障害作業療法の目的・方法・対象		
2	身体障害に対する基本的知識②	身体機能作業療法学の枠組み・プロセス		
3	身体障害に対する基本的知識③	治療原理・運動学習(演習)		
4	身体障害に対する基本的知識④	関節可動域へのアプローチ(演習)		
5	身体障害に対する基本的知識⑤	筋力へのアプローチ		
6	身体障害に対する基本的知識⑥	知覚再学習		
7	身体障害に対する基本的知識⑦	廃用症候群とその対応		
8	身体障害に対する基本的知識⑧	物理療法		
9	実践的知識・技術の教授①	臨床で必要な知識・技術の習得		
10	実践的知識・技術の教授②	臨床で必要な知識・技術の習得		
11	脳血管障害に対する作業療法①	疾患概要		
12	脳血管障害に対する作業療法②	作業療法評価		
13	脳血管障害に対する作業療法③	作業療法プログラム①		
14	脳血管障害に対する作業療法④	作業療法プログラム②		
15	実習①	演習: 模擬患者への介入		

回	テーマ	内 容		
16	実習②	実技：模擬患者への介入 フィードバック		
17	頭部外傷に対する作業療法	疾患概要・評価・作業療法プログラム		
18	脊髄損傷に対する作業療法①	疾患概要・作業療法評価		
19	脊髄損傷に対する作業療法②	作業療法プログラム		
20	実習③	模擬患者演習		
21	骨折に対する作業療法①	疾患概要（大腿骨頸部骨折、橈骨遠位端骨折、腰椎椎体骨折、上腕骨近位端骨折）		
22	骨折に対する作業療法②	作業療法評価・プログラム		
23	実習④	模擬患者演習		
24	関節疾患に対する作業療法①	疾患概要（肩関節周囲炎・変形性関節症・RA）		
25	関節疾患に対する作業療法②	作業療法評価・プログラム		
26	末梢神経損傷・切断に対する作業療法①	疾患概要		
27	末梢神経損傷・切断に対する作業療法②	作業療法評価・プログラム		
28	熱傷に対する作業療法	疾患概要・評価・作業療法プログラム		
29	実践的知識・技術の教授③	臨床で必要な知識・技術の習得		
30	実践的知識・技術の教授④	臨床で必要な知識・技術の習得		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	山口昇、玉垣努：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学（第4版）、医学書院、2021	課題・レポート 実習・実技評価	50.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
身体障害治療学Ⅲ		作業療法科/4年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	白瀬雅登(実務経験あり)
授業の概要				
ケーススタディを通じて、病態、作業療法評価、治療についての基礎知識と実技を習得する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
各疾患に対するリスクをふまえた上で、作業療法の評価から治療の一連の流れが理解できる。 疾患に応じた適切な評価方法が立案できる。 各評価結果からICFにまとめることができる。				
回	テーマ	内 容		
1	身体障害に対する基本的知識 ①	各疾患のリスク管理		
2	身体障害に対する基本的知識 ②	作業遂行アプローチの実際		
3	身体障害に対する基本的知識 ③	モデルケースに対する運動学習		
4	身体障害に対する基本的知識 ④	モデルケースに対する知覚再学習		
5	身体障害に対する基本的知識 ⑤	モデルケースに対する関節可動域・筋力へのアプローチ		
6	脳血管障害に対する作業療法①	モデルケースの紹介		
7	脳血管障害に対する作業療法②	作業療法評価1		
8	脳血管障害に対する作業療法③	作業療法評価2		
9	脳血管障害に対する作業療法④	作業療法プログラム		
10	脳血管障害に対する作業療法⑤	ケースの振り返り		
11	脳血管障害に対する作業療法⑥	再評価		
12	脊髄損傷に対する作業療法①	モデルケースの紹介		
13	脊髄損傷に対する作業療法②	作業療法評価1		
14	脊髄損傷に対する作業療法③	作業療法評価2		
15	脊髄損傷に対する作業療法④	作業療法プログラム		

回	テ ー マ	内 容		
16	脊髄損傷に対する作業療法⑤	ケースの振り返り		
17	脊髄損傷に対する作業療法⑥	再評価		
18	骨折に対する作業療法①	モデルケースの紹介		
19	骨折に対する作業療法②	作業療法評価		
20	骨折に対する作業療法③	作業療法プログラム		
21	骨折に対する作業療法④	ケースの振り返り・再評価		
22	変形性関節症に対する作業療法①	モデルケースの紹介		
23	変形性関節症に対する作業療法②	作業療法評価		
24	変形性関節症に対する作業療法③	作業療法プログラム		
25	変形性関節症に対する作業療法④	ケースの振り返り・再評価		
26	末梢神経損傷・切断に対する作業療法①	モデルケースの紹介		
27	末梢神経損傷・切断に対する作業療法②	作業療法評価		
28	末梢神経損傷・切断に対する作業療法③	作業療法プログラム		
29	熱傷に対する作業療法①	モデルケースの紹介		
30	熱傷に対する作業療法②	作業療法評価・作業療法プログラム		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	山口昇、玉垣努：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学（第3版）、医学書院、2005	確認テスト	100.0%	

科目名		学科・学年	年度・時期	授業形態
精神障害治療学Ⅰ（総論）		作業療法科／3年	2024／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	木下僚介（実務経験あり）
授業の概要				
1. 精神障害者に対する作業療法士の役割や治療の視点を学習ぶ。 2. 初期評価～治療までの精神科における一連のクリニカルリーズニングを学ぶ。 3. 自分自身が感じたことや考えたことを言語化し、相手に伝える経験を積む。 4. 課題解決に向けて、自ら調べたり、能動的に他者と協力する経験を積む。				
授業終了時の到達目標				
1. 精神科における作業療法の治療構造や治療的な関わり方を説明することができる。 2. 評価から治療までの一連の流れを説明することができる。 3. 精神医学や心理学の知識も含めて、作業療法評価や治療について吟味することができる。 4. 事例のニーズを捉え、優先度を考えながら目標設定、治療計画の立案ができる。 5. 参考書やポートフォリオを活用したり、他者と意見交換したり協力し、課題解決に向けて主体的に取り組むことができる。				
回	テーマ	内 容		
1	治療学概論	治療構造、基本的態度や関わり方		
2	治療学概論	回復モデル		
3	回復段階に応じた治療の視点	急性期・回復期		
4	回復段階に応じた治療の視点	維持期・地域移行支援（退院支援）		
5	回復段階に応じた治療の視点	生活期（地域生活支援、復職・就労支援）		
6	心理・精神療法の基礎	精神科で用いられる様々な精神・心理療法		
7	心理・精神療法の基礎	精神科で用いられる様々な精神・心理療法		
8	作業活動	場面設定・段階付け		
9	作業活動	構成的作業・投影的作業		
10	集団・場	集団・場の治療的視点、レクリエーション		
11	精神医療と精神科作業療法	我が国の精神保健医療の現状と課題		
12	行動制限	隔離・身体拘束の現状と課題		
13	医学的視点と作業療法	統合失調症		
14	医学的視点と作業療法	気分障害		
15	医学的視点と作業療法	神経症性障害		

回	テーマ	内 容		
16	医学的視点と作業療法	アルコール使用障害		
17	医学的視点と作業療法	摂食障害		
18	医学的視点と作業療法	パーソナリティ障害		
19	医学的視点と作業療法	その他の疾患		
20	認知機能障害	認知機能リハビリテーション		
21	身体合併症	精神科における身体的アプローチ		
22	精神科作業療法の実際	作業療法士の様々な視点・考え方		
23	精神科作業療法の実際	SST・レクリエーション体験		
24	模擬事例を通して学ぶ精神科作業療法	模擬事例の検討①		
25	模擬事例を通して学ぶ精神科作業療法	模擬事例の検討②		
26	模擬事例を通して学ぶ精神科作業療法	模擬事例の検討③		
27	模擬事例を通して学ぶ精神科作業療法	模擬事例の検討④		
28	模擬事例を通して学ぶ精神科作業療法	模擬事例の検討⑤		
29	模擬事例を通して学ぶ精神科作業療法	模擬事例の検討⑥		
30	まとめ	作業療法士の視点・役割・展望		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・新宮尚人：精神機能作業療法学，第3版，医学書院。 ・矢谷令子：作業療法評価学，第3版，医学書院。 ・上野武治：精神医学，第4版，医学書院。 		期末試験 課題・レポート ・グループ課題&発表：10 ・振り返り&確認テスト：15 ・その他の課題：5	70.0% 30.0%	・精神機能評価学で作成したポートフォリオを活用します。

作成者: 木下僚介

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神障害治療学Ⅱ		作業療法科/4年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	木下僚介(実務経験あり)
授業の概要				
精神障害者の症状や回復状態、ライフステージに沿った作業療法の視点や治療について学習する。 国家試験で要される精神医学を含めた精神障害作業療法に関連した知識を整理する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 精神科における作業療法の視点や役割、目的について理解し、説明できる。 事例情報から回復段階を読み取り、必要な評価手法や治療法を選択することができる。 精神科に必要な関連知識を説明できる。 				
回	テーマ	内 容		
1	精神障害と臨床医学①	統合失調症		
2	精神障害と臨床医学②	統合失調症		
3	精神障害と臨床医学③	気分障害		
4	精神障害と臨床医学④	認知症		
5	精神障害と臨床医学⑤	依存症		
6	精神障害と臨床医学⑥	てんかん		
7	精神障害と臨床医学⑦	神経症性障害、パーソナリティ障害		
8	臨床心理学①	防衛機制		
9	臨床心理学②	心理療法		
10	臨床心理学③	心理検査、学習理論		
11	精神障害に対する作業療法介入①	精神障害総論		
12	精神障害に対する作業療法介入②	集団作業療法		
13	精神障害に対する作業療法介入③	知的障害、自閉症スペクトラム障害		
14	統合失調症に対する作業療法①	症状、特徴		
15	統合失調症に対する作業療法②	介入の視点		

回	テ ー マ	内 容		
16	統合失調症に対する作業療法③	症例		
17	気分障害に対する作業療法①	症状、特徴		
18	気分障害に対する作業療法②	介入の視点		
19	気分障害に対する作業療法③	症例		
20	神経症性障害に対する作業療法①	症状・特徴、介入の視点		
21	神経症性障害に対する作業療法②	症例		
22	摂食障害に対する作業療法	症状・特徴、介入の視点 症例		
23	パーソナリティ障害に対する作業療法	症状・特徴、介入の視点 症例		
24	てんかんに対する作業療法	特徴・発作・症状 介入の視点、症例		
25	認知症に対する作業療法①	症状・特徴、介入の視点		
26	認知症に対する作業療法②	症例		
27	依存症に対する作業療法①	症状・特徴、介入の視点		
28	依存症に対する作業療法②	症例		
29	発達障害に対する作業療法	特徴・発作・症状 介入の視点、症例		
30	精神科作業療法の視点	まとめと振り返り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・長崎重信：作業療法ゴールドマスター・テキスト 精神障害作業療法学 改定第2版、2015. ・新宮尚人：精神機能作業療法学 第3版、2020.		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
発達障害治療学		作業療法科/3年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中川等史(実務経験有)
授業の概要				
発達過程で障害がある子どもたちは多岐にわたる疾患がある。その多岐にわたる疾患への理解を深め、それらの作業療法評価や治療技術を学ぶ。更に時代や環境によって変化をする子どもたちの障害への対応や家族指導、子どもへの具体的な支援方法、作業療法士に求められる役割なども学んでいく。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
身体障害、知的障害、発達障害と多岐にわたる発達過程での障害に対する作業療法評価及び治療について理解し、治療計画を立てることが出来る知識を身につける。また、子どもや家族への対人技術、作業療法士に求められる役割を理解する。				
回	テーマ	内容		
1	発達過程作業療法の基礎	発達過程作業療法の歴史や理念を学ぶこと及び発達に障害がある子どもを評価し治療するための基礎知識を学ぶ。		
2	発達過程作業療法実践現場と実践課程	発達に障害がある子どもたちの作業療法の実践現場や実践する過程を学ぶ。		
3	発達過程作業療法の地域支援	発達に障害のある子どもたちの地域支援について学ぶ。		
4	新生児疾患(NICU対象児)	NICUでの作業療法対象児についての理解と作業療法の実際を学ぶ。重症児のリスク管理について学ぶ。		
5	脳性麻痺の作業療法の実際	脳性麻痺に対する作業療法評価し治療、家族指導、地域連携を学ぶ。		
6	知的障害に対する作業療法の実際	知的障害の理解と作業療法評価し治療の実際を学ぶ。地域での作業療法についても理解する。		
7	進行性筋ジストロフィーに対する作業療法の実際	進行性筋ジストロフィーの疾患の理解と作業療法評価し治療の実際を学ぶ。		
8	重症心身障害に対する作業療法の実際	重症心身障害の理解と作業療法評価し治療の実際について学ぶ。		
9	重症心身障害に対する作業療法の実際	重症心身障害の理解と作業療法評価し治療の実際について学ぶ。在宅でのケアについて学ぶ。		
10	骨関節疾患に対する作業療法の実際	先天性的骨関節疾患の理解と作業療法評価し治療の実際を学ぶ。		
11	二分脊椎に対する作業療法の実際	二分脊椎の理解と作業療法評価し治療の実際を学ぶ。		
12	自閉症スペクトラムに対する作業療法の実際	自閉症スペクトラムの理解と作業療法評価し治療の実際を学ぶ。		
13	自閉症スペクトラムに対する作業療法の実際	自閉症スペクトラムの理解と作業療法評価し治療の実際を学ぶ。		
14	学習障害に対する作業療法の実際	学習障害の理解と作業療法評価し治療の実際を学ぶ。		
15	注意欠如し多動性障害に対する作業療法の実際	注意欠如し多動性障害の理解と作業療法評価し治療の実際を学ぶ。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
福田恵美子編:標準作業療法 発達過程作業療法学 第2版 2014 医学書院		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
高次脳機能障害治療学Ⅰ (総論)		作業療法科/3年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	砂原伸行・能登真一 (実務経験有り)
授業の概要				
ヒトの行動に深くかかわる中枢機能としての高次脳機能について、障害の理解・評価・治療までの実践を学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
高次脳機能障害の詳細を理解し、統合と解釈および治療プログラム立案ができるようになる				
回	テーマ	内容		
1	総論	脳の働きと高次脳機能障害の概要 作業療法、リハビリテーションの歴史的変遷		
2	各論①	視空間認知障害の概要と半側空間無視の位置付け		
3	各論②	半側空間無視の特徴と関連障害の概要		
4	各論③	高次動作性障害の概要と失行症		
5	各論④	失行症に関連する行為・行動の障害		
6	各論⑤	遂行機能障害の特徴と前頭葉障害との関連		
7	各論⑥	思考、問題解決の障害及び前頭葉性行為障害と脳梁症候群		
8	各論⑦	行政的定義と注意障害、意識障害の概要		
9	各論⑧	記憶障害の概要		
10	各論⑨	視覚失認、地誌的障害の概要		
11	各論⑩	言語関連障害の概要(失語症、中枢性聴覚障害等)		
12	各論⑪	感情の障害及び社会的行動障害の概要		
13	各論⑫	その他の症候群(ゲルストマン症候群、パレント症候群等) 最近のトピックス及び社会的支援の概要		
14	各論⑬	高次脳機能障害例に対する作業療法実践の流れ		
15	各論⑭	高次脳機能障害例に対する治療の枠組みと理論		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・鈴木孝治 高次脳機能障害作業療法学 第3版 作業療法学ゴールドマスターテキスト メディカルビュー		期末テスト	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
高次脳機能治療学Ⅱ (各論)		作業療法科/4年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	梶・護摩堂 (実務経験あり)
授業の概要				
事例を通して、評価⇒治療プログラム立案⇒治療・支援実施⇒最終評価の流れを理解する 【実務経験：病院勤務】				
授業終了時の到達目標				
生活に密着した治療プログラムを作成することができる				
回	テーマ	内 容		
1	高次脳機能障害復習	分類及び症状と脳局在		
2	記憶障害・検査法の復習	三宅式記憶力検査/Reyの複雑図形検査/ヘントン視覚記憶検査①記憶と想起②エピソード記憶③展望記憶 リハーミート/ウェクスラー記憶検査		
3	記憶障害・治療的訓練	単純反復訓練の効果、記憶スパンの拡張訓練、記憶術の活用、エラーレス学習、外的記憶補助具の利用訓練、スキル学習		
4	注意障害・検査法の復習	①CAT②TMT③かな拾いテスト④転換性注意など⑤持続性注意など		
5	注意障害・治療的訓練	注意の全般的訓練、注意の要素の特異的訓練、自覚志向型注意訓練		
6	半側空間無視	①法の復習②知覚障害?お金のすくろプを用いた実験③文字カードを用いた実験④絵カード(右)を見る事の変更、視覚的注意の訓練、視覚的注意を司る大脳皮質、小脳皮質の役割、⑤視覚・聴覚感覚の活用、⑥日常生活における応用、⑦リスム模写		
7	遂行機能障害	1.BADSI? ハノイの塔③スケジュールノート④発散的思考⑤収束的思考⑥計画的・総合的思考⑦習慣的反應の抑制⑧stroop test⑨		
8	視覚性認知の障害	単純反復訓練の効果、フラッシュカード訓練及びMOR法、要素的視覚障害への対処、視覚的特徴への注意の喚起、てがかりを使った認知学習、代償的方法の導入		
9	空間関係の認知と操作の障害	視空間知覚の自然回復、視空間性定位のための練習、聴覚的障害(道順障害)への対処、構成障害が生み出す問題への対処、心像の問題、関係を表す言葉の理解の障害への対処		
10	読み・書字・計算の障害	読字障害の治療的訓練、書字障害の治療的訓練、数処理計算障害の治療的訓練、計量器使用の障害の治療的訓練		
11	失行症	治療的訓練の効果の検討、指示様式の違いによる効果の検討、事例研究と事例報告		
12	失語症	①読解力の訓練②自書字の訓練③コミュニケーション能力改善の訓練④実用的コミュニケーション回復のための援助、心理社会面への援助		
13	身体意識の障害	非半身性身体意識障害の場合、半身性身体意識障害の場合		
14	障害の無自覚	①一般的な知識の獲得②自分の高次脳機能障害への自覚、影響の自覚		
15	地域・就労支援	回復期リハビリチームアプローチ・薬物療法・地域包括支援・一般就労と就労移行支援及び就労継続支援		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
高次脳機能障害学 第2版 石合純夫 医歯薬出版 神経内科学 第4版 川平和美 医学書院 病気がみえる vol 17 脳・神経 医療情報科学研究所		授業態度 期末試験	10.0% 90.0%	

科目名		学科・学年	年度・時期	授業形態
高齢期障害治療学		作業療法科/3年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	丁子・木下・白瀬(実務経験有)
授業の概要				
高齢期領域の作業療法に必要な、高齢者の社会的背景や心身機能の特徴を知り、介護予防に資する作業療法支援や、認知症に対する作業療法支援について学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 我が国における高齢者の社会的背景と個人の生活歴の分析方法がわかる。 2. 心身機能の老化について説明できる。 3. 高齢者における、生涯発達を前提とした作業療法支援について概要を説明できる。 4. 各種認知症の症状や、作業療法支援を説明できる。				
回	テーマ	内 容		
1	高齢期作業療法の基礎①	高齢期の身体的特徴、おこりやすい症候		
2	高齢期作業療法の実践①	評価、目標設定、治療・援助計画および実施、リスク管理		
3	高齢期作業療法の基礎②	高齢期の心理的特徴、おこりやすい症候		
4	高齢期作業療法の実践②	評価、目標設定、治療・援助計画および実施、リスク管理		
5	一般高齢者の作業療法	虚弱高齢者のケース①		
6	一般高齢者の作業療法	虚弱高齢者のケース②		
7	一般高齢者の作業療法	寝たきり高齢者のケース①		
8	一般高齢者の作業療法	寝たきり高齢者のケース②		
9	介護者へのサポート	高齢者と介護者支援		
10	高齢者への身体アプローチ①	模擬事例①		
11	高齢者への身体アプローチ②	模擬事例②		
12	高齢者への身体アプローチ③	模擬事例③		
13	高齢期の精神系疾患	せん妄、幻覚妄想状態、うつ病、神経症、人格障害		
14	認知症高齢者に対する作業療法	認知症の分類と特徴		
15	認知症高齢者に対する作業療法	評価とその目的		

回	テーマ	内 容		
16	認知症高齢者に対する作業療法	アクティビティと活動形態、様々な治療法		
17	認知症高齢者に対する作業療法	軽度認知機能障害（MCI）の高齢者のケース		
18	認知症高齢者に対する作業療法	中等度の認知症高齢者のケース		
19	認知症高齢者に対する作業療法	中等度の認知症高齢者のケース		
20	認知症高齢者に対する作業療法	重度の認知症高齢者のケース		
21	認知症高齢者に対する作業療法	重度の認知症高齢者のケース		
22	認知症高齢者に対する作業療法	重度の認知症から寝たきりに移行したケース		
23	認知症高齢者へのアプローチ①	模擬事例①		
24	認知症高齢者へのアプローチ②	模擬事例②		
25	認知症高齢者へのアプローチ③	模擬事例③		
26	高齢者支援の実際	病院・施設・在宅		
27	高齢期作業療法の実際①	高齢者疑似体験①		
28	高齢期作業療法の実際②	高齢者疑似体験②		
29	高齢期作業療法の実際③	高齢期のレクリエーション①		
30	高齢期作業療法の実際④	高齢期のレクリエーション②		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	松房ら編：標準作業療法学，高齢期作業療法 [第3版]，医学書院	課題・レポート（丁子） 課題・レポート（木下・白瀬） 課題・レポート（外部講師）	70.0% 20.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
福祉住環境論		作業療法科/2年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	梶 直美(実務経験あり)
授業の概要				
福祉住環境コーディネーター検定試験2級合格レベルまでの知識を身に付ける【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
福祉住環境コーディネーター検定試験2級合格				
回	テーマ	内 容		
1	第1章	確認問題とテキスト確認		
2	第1章	確認問題とテキスト確認		
3	第2章	確認問題とテキスト確認		
4	第2章	確認問題とテキスト確認		
5	第3章	確認問題とテキスト確認		
6	第3章	確認問題とテキスト確認		
7	第4章	確認問題とテキスト確認		
8	第4章	確認問題とテキスト確認		
9	第5章	確認問題とテキスト確認		
10	第5章	確認問題とテキスト確認		
11	第6章	確認問題とテキスト確認		
12	第6章	確認問題とテキスト確認		
13	過去問	試験・解答・解説		
14	過去問	試験・解答・解説		
15	過去問	試験・解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
東京商工会議所編 福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト 福祉住環境コーディネーター2級短期合格テキスト		期末試験	100.0%	検定試験に不合格の場合は、レポート課題

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
地域作業療法論		作業療法科/3年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	梶：竹内：丁子 (実務経験あり)
授業の概要				
地域作業療法の基盤と背景を知り、医学モデルと生活モデルの違いを理解する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
生活モデルがICFと共通した考えをもつことと「活動の重要性」を再認識する。 生活行為向上マネジメントを深く学ぶことにより、作業療法アセスメントとプログラム立案技術を身に着ける。				
回	テーマ	内容		
1	第1章 地域作業療法の基盤と背景	地域を知る		
2		地域リハビリテーションの流れをとらえる		
3		地域作業療法を考察する		
4	第2章 地域作業療法を支える制度・社会生活支援・連携	制度・施策とのつながりを知る		
5		社会生活支援を理解する		
6		多職種連携と協働を理解する		
7	第3章 地域作業療法の実践	地域作業療法の枠組みを理解する		
8		住環境と地域づくりを考察する		
9		支援プログラムとマネジメントを学ぶ		
10		地域作業療法の実践の場を知る		
11	第4章 実践事例	病院(身体機能領域)		
12		病院(精神機能領域)		
13		診療所(クリニック)		
14		介護老人保健施設		
15		通所介護施設(デイサービスセンター)		

回	テ ー マ	内 容		
16		通所リハビリテーション（デイケアセンター）		
17		訪問作業療法		
18		地域包括支援センター		
19		介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）		
20		発達支援		
21		教員		
22		地域生活移行		
23		認知症支援		
24		在宅（終末期）		
25		車の運転		
26	支援プログラムとマネジメントを学ぶ	MTDLP①		
27		MTDLP②		
28		MTDLP③		
29		MTDLP④		
30		MTDLP⑤		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	大熊明編集 地域作業療法学第3版 医学書院	課題・レポート 確認テスト	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
職業関連活動学(就労支援)		作業療法科/3年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	梶直美(実務経験あり)
授業の概要				
就労支援の実践事例を通して地域で働く作業療法士の役割りと内容を理解する 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
就労支援に必要な作業療法士の役割りと必要な支援を説明できる				
回	テーマ	内容		
1	総論	職業リハビリテーションの新たな流れ ゴールドマスターp223~p231		
2		多様な働き方		
3		障害者雇用(企業就労)		
4	就労評価	就労の評価とは		
5		レディネステスト		
6		GATB		
7		ワークサンプル法・幕張式検査法		
8		モグブツ法		
9		性格検査		
10	各論	就学・復学支援		
11		高次脳機能障害		
12		精神機能障害		
13	マネジメント	MTDLP		
14		MTDLP		
15		MTDLP		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
長崎電信監修 ゴールドマスター作業療法 概論第3版 メジカルビュー社 小林法一編集 地域作業療法学 医歯薬出版 能登真一編集 作業療法評価学第3版 医学書院		レポート 小テスト	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度・時期	授業形態
臨床見学実習Ⅰ		作業療法科/1年	2024/前期	実習(一部学内実習)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		1単位(40時間)	必須	中川・寛・白瀬・水野・藤原・竹内(実務経験あり)
授業の概要				
<p>病院にて、見学実習を3日間行い、その前後に学校で2日分の課題を行う。</p> <p>①作業療法士になることへの自己動機を確認する。②これまで学習したことの意義を理解し、今後の学習意欲の向上を行う。③社会人、医療従事者としての責任的行動の遂行を心掛ける。④病院における作業療法部門の役割づけを理解する。⑤作業療法士の業務の内容を把握する。⑥患者や利用者との関わり方についてイメージを持つ 【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>①病院のスケジュールに従って行動することができる。学生は施設の規則を遵守し、職員・患者に対する礼儀をわきまえ、見学担当者の指示に従うことができる。②職員・患者に対して社会人として相応しいコミュニケーション(適切な挨拶・言葉遣い等)がとれる。③学生間や患者との不用意な会話は慎むことができる。また、患者について知り得た情報の守秘義務を守ることができる。</p>				
回	テーマ	内容		
1		令和6年8~9月頃1週間(40時間)の病院・施設での実習		
2		新型コロナウイルス感染症にて実習中止などの場合、期間変更もしくは学内実習とする場合がある。		
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題レポート、デイリーノートの提出、出欠、実習態度、等により評定。	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床見学実習Ⅱ		作業療法科/2年	2024/前期	実習(一部学内実習)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		1単位(40時間)	必須	榊・木下・中川・白瀬・護摩堂・竹内 (実務経験有)
授業の概要				
臨床実習として現場に赴き、臨床場面の実態を知り、作業療法士の仕事内容を理解する。 施設・病院等で実習を行う。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法の一連の流れを見学し、作業療法士の業務内容の理解を深める。 ・対象者のリスク管理を守れる ・指導者と対象者と適切な関係がとれる。 				
回	テーマ	内容		
1	令和6年8~9月頃、病院・施設での実習予定	新型コロナウイルス感染症にて実習中止などの場合、期間変更もしくは学内実習とする場合がある。		
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 授業態度 課題・レポート	50.0% 30.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
地域作業療法実習		作業療法科/4年	2024/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		1単位(40時間)	必須	梶・中川・木下・白瀬・ 摩堂・竹内(実務経験有)
授業の概要				
実習の成果を踏まえ、地域作業療法の体験をすることで、理解を深めることを目的とする。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・地域作業療法の理解を深める。 ・対象者のリスク管理を守れる。 ・指導者や対象者と適切な関係をとれる。 				
回	テーマ	内容		
1	令和6年5月7日～6月24日 令和6年7月1日～8月20日 内5日間	新型コロナウイルス感染症にて実習中止などの場合、期間変更する場合がある。		
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
158				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	50.0%	
		授業態度	30.0%	
		課題・レポート	20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価学実習セミ		作業療法科/2年	2024/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	橋・白瀬・中川・木下 (実務経験有)
授業の概要				
各分野での作業療法評価実習に必要な評価方法の復習【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
身体障害、精神障害、発達分野での評価実習に必要な評価方法を具体的に実習しながら身に着ける				
回	テーマ	内容		
1	身体機能評価実技試験	ROMテスト(OSCEにて評価)		
2	身体機能評価実技試験	MMT(OSCEにて評価)		
3	身体機能評価実技試験	STEF(OSCEにて評価)		
4	身体機能評価実技試験	SIAS(OSCEにて評価)		
5	身体機能評価実技試験	Brunstrom Stage Test(OSCEにて評価)		
6	身体機能評価実技試験	感覚検査(OSCEにて評価)		
7	身体機能評価実技試験	バランス・協調性・失調症検査(OSCEにて評価)		
8	ADL検査	ADL(FIM他)		
9	認知機能検査	HDSR, MMSE		
10	高次脳機能検査	記憶検査		
11	高次脳機能検査	失行失認検査		
12	高次脳機能検査	BIT, BADS, リバーミード行動記憶検査		
13	精神機能評価	精神機能評価		
14	精神機能評価	精神機能評価		
15	発達機能評価	発達機能評価(GMFM・GMFCS・MACS・遠城寺式・DTVP)		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作業療法評価学 医学書院		実習・実技評価	100.0%	

科目名		学科・学年	年度・時期	授業形態
臨床実習Ⅰゼミ		作業療法科 3年	2024 後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必修・選修	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必修	中川・坂下他(更新履歴参照)
授業の概要				
<p>本授業では、これまでに学んだ全分野に関して、講義と演習、確認テストを通して、基礎的知識の確認を行う。</p>				
授業終了後の到達目標				
<p>作業療法を実施する上での基礎知識(解剖・運動学・生理学など)と技術の確認を行い、基礎的臨床能力を身につける。</p>				
回	テーマ	内 容		
1	解剖学	総論		
2	解剖学	関節・筋(上肢・下肢)		
3	解剖学	関節・筋(顔面・体幹)		
4	解剖学	触診(上肢・体幹・下肢)		
5	運動学	運動器の構造		
6	運動学	四肢の運動		
7	運動学	体幹の運動		
8	運動学	姿勢		
9	運動学	歩行		
10	運動学	運動学習		
11	生理学	総論		
12	生理学	神経 感覚		
13	生理学	発声・構音・音声		
14	生理学	呼吸 循環		
15	人間発達学①	発達段階(0から6歳)		
16	人間発達学②	思春期と高齢期		
17	小児科学①	新生児と未熟児		
18	小児科学②	免疫・アレルギー疾患		
19	整形外科学①	外傷疾患		
20	整形外科学②	変形性疾患		
21	臨床心理学①	こころの変化		
22	臨床心理学②	カウンセリング技法		
教科書・教材		評価基準	評価法	その他
		期末試験		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅱゼミ		作業療法科/4年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	梶・中川・木下・白瀬・護摩堂・竹内 (実務経験有)
授業の概要				
臨床実習Ⅰまでに学んだ全分野に関して、評価技能とプログラム立案ならびに臨床応用を確認する				
授業終了時の到達目標				
最終実習に必要な知識技能の確認と、作業療法全般の理解を深める				
回	テーマ	内容		
1	実習オリエンテーション	オリエンテーション		
2	作業療法評価	ROM・MMT・BRS・SAIASについて説明		
3	ROM	実技練習		
4	MMT	実技練習		
5	BRSテスト	実技練習		
6	SAIA検査	実技練習		
7	作業療法介入技法	起き上がり、着替え上衣・下衣について説明		
8	起き上がり	実技練習		
9	着替え上衣・下衣	実技練習		
10	急性期作業療法	評価～治療の実際(講義)		
11	回復期作業療法	評価～治療の実際(講義)		
12	地域での作業療法	評価～治療の実際(講義)		
13	神経発達学的治療	評価～治療の実際(講義)		
14	OSCE	実技練習		
15	OSCE	実技練習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実技試験	100.0%	

作成者:白瀬雅登

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価実習Ⅰ		作業療法科/2年	2024/後期	実習(一部学内実習)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		2単位(80時間)	必須	梶・木下・中川・白瀬 (実務経験有)
授業の概要				
臨床実習として現場に赴き、臨床場面の実態を知り評価を体験することにより、評価測定の仕方や意味を理解する。 施設・病院等で評価実習を行う。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法の一連の流れと評価実技を経験し、作業療法士としての仕事内容の理解を深める。 ・対象者のリスク管理を守れる ・指導者と対象者と適切な関係がとれる。 				
回	テーマ	内容		
1	令和7年3月11日(火)～3月25日(火) 病院・施設での実習	コロナウイルス感染拡大の場合、学内実習への変更や実習時期や期間の変更があります。		
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	50.0%	
		授業態度	30.0%	
		課題・レポート	20.0%	

作成者: 中川等史

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価実習Ⅱ		作業療法科/3年	2024/後期	実習(一部、学内実習)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		4単位(160時間)	必須	白瀬・木下・中川・梶 (実務経験有)
授業の概要				
臨床実習として現場に赴き、臨床場面の実態を知り、専門家としての心構えと基本的なスキルの獲得を目指す。 施設・診療所・病院等で実習を行う。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法の一連の流れのうち、評価から治療計画の立案までを経験し、理解を深める。 ・対象者のリスク管理を守る ・指導者と対象者と適切な関係がとれる。 				
回	テーマ	内容		
1	令和5年9月頃より実習(160時間)の予定	新型コロナウイルス感染状況により実習中止の場合、期間変更もしくは、学内実習への変更があります。		
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	50.0%	
		授業態度	30.0%	
		課題・レポート	20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅰ		作業療法科/3年	2024/後期	実習(一部学内実習)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		7単位(280時間)	必須	白瀬・木下・中川・梶(実務経験有)
授業の概要				
<p>評価実習に引き続き、臨床場面の実態を知り、専門家としての心構えと基本的なスキルの獲得を目指す。 また、作業療法の評価・治療までの一連の流れを経験できる。 施設・診療所・病院等で実習を行う。【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 作業療法の一連の流れのうち、評価から治療の実施までを経験し、理解を深める。 対象者のリスク管理を守れる。 指導者と対象者と適切な関係がとれる。 				
回	テーマ	内容		
1	令和6年11月ごろより病院・施設実習(280時間)	新型コロナウイルス感染拡大により実習中止の場合、実習期間の変更、学内実習への変更があります。		
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 授業態度 課題・レポート	50.0% 30.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅱ		作業療法科/4年	2024/前期	実習 (一部、学内実習)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		7単位(280時間)	必須	梶、中川、木下、白瀬、護摩堂、 竹内(実務経験有)
授業の概要				
臨床実習Ⅰの成果を踏まえ、作業療法の評価から治療計画の立案、治療計画の実施、再評価の一連の流れを経験することで、知識と技術を習得することを目指す。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業療法の一連の流れのうち、評価から再評価までを経験し、理解を深める。 ・ 対象者のリスク管理を守れる。 ・ 指導者や対象者と適切な関係をとれる。 				
回	テーマ		内容	
1	令和6年5月7日～6月24日 令和6年7月1日～8月20日		新型コロナウイルスの感染拡大により、令和2年5月1日文科省 事務連絡に沿って、実習中止などに対し、学内実習若しくは、期間変更等に対応する	
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
158				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 授業態度 課題・レポート	50.0% 30.0% 20.0%	